

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人加計学園

(2) 大学名

岡山理科大学

(3) 大学の位置

〒794-0085 (700-0005)

愛媛県今治市いこいの丘1-3 (岡山県岡山市北区理大町1番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ コウタロウ) 加計 晃太郎 (平成13年1月)		
学長	(ヤギノ ヤスノブ) 柳澤 康信 (平成28年4月)		
学部長	(ヨシガワ ヤスヒロ) 吉川 泰弘 (平成30年4月)		
学科長等	(カワミヤミ ミツシロ) 汾陽 光盛 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
獣医学部 獣医学科 学士(獣医学)	獣医学関係	6年	140人	— 年次人	840人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	140 (-) [20]		(-) (-) [-]		() () []		() () []		() () []		() () []		1.05倍	
志願者数	2080 (-) (-) [14] [-]	- (-) (-) [-] [-]	- (-) (-) [-] [-]		() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
受験者数	1962 (-) (-) [14] [-]	- (-) (-) [-] [-]	- (-) (-) [-] [-]		() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
合格者数	334 (-) (-) [10] [-]	- (-) (-) [-] [-]	- (-) (-) [-] [-]		() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
B 入学者数	147 (-) (-) [9] [-]	- (-) (-) [-] [-]	- (-) (-) [-] [-]		() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
入学定員超過率 B/A	1.05													

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	147 [9] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
2年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
5年次									- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
6年次												- [-] (-)	- [-] (-)
計	147 [9] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	147 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
平成33年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
			平成33年度	人	人	
平成34年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
			平成33年度	人	人	
			平成34年度	人	人	
平成35年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
			平成33年度	人	人	
			平成34年度	人	人	
			平成35年度	人	人	
合 計	147 人	0 人				

(注)・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{147} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成33年度】

$$\frac{\text{平成33年度の退学者数(a)}}{\text{平成33年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成34年度】

$$\frac{\text{平成34年度の退学者数(a)}}{\text{平成34年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成35年度】

$$\frac{\text{平成35年度の退学者数(a)}}{\text{平成35年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

< 獣医学部 獣医学科 >

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通導入科目	動物関連キャリア概論	1①	1			12	5					兼1
	生命倫理学	1②	1			1						
	人間・動物関係学	1③		2		1						
	獣医事法規	3②	1			1						
基礎科目	生命科学	1①	1				1					
	獣医分子生物学	1①	1			1						
	生命科学実習	1①	1			4	4	1	7			
	化学	1①	1			1						
	生物物理学	1③	1			1						兼1
	放射線生物学	3②	1			1						
	情報リテラシー	2①	2			1						
	生物統計	2③		1			1					
動物福祉論	1①	1									兼1	
科学倫理学	4①	1									兼1	
基礎獣医系科目	獣医生化学	1②	2			1						
	獣医生化学実習	1②	1			1	2	1	2			
	獣医生理学	1③	2			1						
	獣医生理学実習	1④	1			2	3	1	1			
	獣医形態機能学Ⅰ	1②	1			1						
	獣医形態機能学Ⅱ	1③	2				1					
	獣医解剖学実習	2④	2			2	1		2			
	獣医組織学実習	1③	1			1	2		1			
	獣医薬理学総論	2①	1			1						
	獣医薬理学各論	2②	2			1						
獣医薬理学実習	2②	1			3	1	1	2				
専門教育科目	獣医微生物学	2①	2			1	1		1			兼1
	獣医微生物学実習	2①	2			6	2		1			
	獣医毒性学	2④	2			1						
	獣医毒性学実習	2④	1			3	1	1	2			
	動物実験学	2②	2				1		1			
	獣医実験動物学実習	2②	1			1	1	1	4			
	獣医病理学総論	2①	1			1						
	獣医病理学各論	3③	2			1						
	獣医病理解剖学実習	3②	1			1	1		1			
	獣医病理学実習	3③	1			2	1		2			
	獣医免疫学	2③	2			1						
	獣医免疫学実習	2③	1			3	1		3			
	臨床検査学入門	3①	1			1						
	動物行動学	3①	2			1						
野生動物学	3②	2			1							
動物感染症学	3②	2			2							
魚病学	3②	2				1						
魚病学実習	3②	1			1	1		2				
公衆衛生系科目	医動物学	2②	2			1						
	医動物学実習	2③	1			2			2			
	人獣共通感染症学	2③	2			1						
	獣医公衆衛生学総論	2④	2			1						
	獣医公衆衛生学実習	2④	1			3	4		2			
	食品衛生学	3①	2			1						
食品衛生学実習	3①	1			5	3					兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通導入科目	動物関連キャリア概論	1①	1			10	3					兼5
	生命倫理学	1②	1			1						
	人間・動物関係学	1③		2		1						
	獣医事法規	3②	1			1						
基礎科目	生命科学	1①	1				1					
	獣医分子生物学	1①	1			1						
	生命科学実習	1①	1			4	2	1	7			兼2
	化学	1①	1			1						
	生物物理学	1③	1			1						兼1
	放射線生物学	3②	1			1						兼1
	情報リテラシー	2①	2									
	生物統計	2③		1								
動物福祉論	1①	1									兼1	
科学倫理学	4①	1									兼1	
基礎獣医系科目	獣医生化学	1②	2			1						
	獣医生化学実習	1②	1			1	2	1	2			
	獣医生理学	1③	2			1						
	獣医生理学実習	1④	1			2	3	1	1			兼1
	獣医形態機能学Ⅰ	1②	1			1						
	獣医形態機能学Ⅱ	1③	2				1					
	獣医解剖学実習	2④	2			2	1		2			
	獣医組織学実習	1③	1			1	2		1			兼1
	獣医薬理学総論	2①	1			1						
	獣医薬理学各論	2②	2			1						
獣医薬理学実習	2②	1			3	1	1	2				
専門教育科目	獣医微生物学	2①	2			1	1		1			兼1
	獣医微生物学実習	2①	2			6	2		1			
	獣医毒性学	2④	2			1						
	獣医毒性学実習	2④	1			3	1	1	2			
	動物実験学	2②	2				1		1			
	獣医実験動物学実習	2②	1			1	1	1	4			
	獣医病理学総論	2①	1			1						
	獣医病理学各論	3③	2			1						
	獣医病理解剖学実習	3②	1			1	1		1			
	獣医病理学実習	3③	1			2	1		2			
	獣医免疫学	2③	2			1						
	獣医免疫学実習	2③	1			3	1		3			
	臨床検査学入門	3①	1			1						
	動物行動学	3①	2			1						
野生動物学	3②	2			1							
動物感染症学	3②	2			2							
魚病学	3②	2				1						
魚病学実習	3②	1			1	1		2				
公衆衛生系科目	医動物学	2②	2			1						
	医動物学実習	2③	1			2			2			
	人獣共通感染症学	2③	2			1						
	獣医公衆衛生学総論	2④	2			1						
	獣医公衆衛生学実習	2④	1			3	4		2			
	食品衛生学	3①	2			1						
食品衛生学実習	3①	1			5	3					兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
公衆衛生 系科目	環境衛生学	3①	2			1						
	獣医疫学	3①	2			1						
畜水産系科目	生産農学概論	1③		1								兼1
	水産増養殖学	1④		2		1						兼1
	遺伝育種学	2③	2			1						兼1
	家禽疾病学	2④	1			1						
	動物衛生学	3②	1			1						
	動物衛生学実習	3②	1			5	2		3			兼2
	飼料作物学	4①		2								兼1
臨床系科目 専門教育科目	栄養学	1④		2								兼1
	獣医臨床薬理学	4②	1			4	1	2				
	獣医臨床栄養学	4②	1			1						
	獣医内科学総論	3③	1			2						
	獣医臨床病理学	4④	1				1					
	獣医呼吸・循環器病学	3④	2			2			2			
	獣医消化器病学	4①	2			1						
	獣医泌尿生殖器病学	4②	2			1						
	獣医内分泌代謝学	4③	2			1						
	獣医神経病学	4②	1						1			
	獣医血液・免疫病学	4①	1			1						
	獣医皮膚病学	4④	1			1						
	獣医眼科学	4④	1				1					
	動物行動治療学	4③	1			1						
	小動物内科学実習	3③	1			5	3	4	9	2		
	獣医外科学総論	3③	1			1						
	獣医手術学総論	3③	1			1						
	獣医麻酔科学	3③	1				1					
	獣医軟部組織外科学	3④	2			1						
	獣医運動器病学	4②	2						1			
	獣医臨床腫瘍学	4④	1			1						
	獣医画像診断学	3③	2				1		2			
	小動物外科学実習	3④	1.5			2	2	3	5	2		兼1
	獣医画像診断学実習	3④	1			1		2	5			
	産業動物臨床学	4①	2				1					
	馬臨床学	4④	1									兼1
	獣医臨床繁殖学	4③	2				1					
産業動物臨床実習	4②	2			3	1		2			兼1	
獣医臨床繁殖学実習	4③	1			2			3			兼2	
総合獣医学演習Ⅰ	4④	1			10	4	4	8				
総合獣医学演習Ⅱ	6③	1			4							
獣医療面接実習	4②	0.5			3	1	1	5				
総合参加型臨床実習	5①	6			7	5	4	11	3		兼1	
アドバンスサイエンス科目	分子細胞腫瘍学	5③		1		2	1	2				
	発生工学	5③		1		1			1			兼1
	獣医病態モデル学	5③		1		1	1		1			兼1
	創薬科学	5④		1		1						
	トランスレーショナル・リサーチ	5③		1		1						兼1
	比較動物機能科学	5④		1		2	1		1			
	修復・再生医療科学	6①		1		1	3	1	1			
国際ライフサイエンス産業政策論	6②		2		1						兼1	
ライフサイエンス特別実習	5③		1		2	6						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
公衆衛生 系科目	環境衛生学	3①	2									
	獣医疫学	3①	2									兼1
畜水産系科目	生産農学概論	1③		1								
	水産増養殖学	1④		2		1						
	遺伝育種学	2③	2									
	家禽疾病学	2④	1					1				
	動物衛生学	3②	1					1				
	動物衛生学実習	3②	1					3	1		3	兼1
	飼料作物学	4①		2								
臨床系科目 専門教育科目	栄養学	1④		2								兼1
	獣医臨床薬理学	4②	1			4	1	2				
	獣医臨床栄養学	4②	1			1						
	獣医内科学総論	3③	1			2						
	獣医臨床病理学	4④	1				1					
	獣医呼吸・循環器病学	3④	2			2			2			
	獣医消化器病学	4①	2			1						
	獣医泌尿生殖器病学	4②	2			1						
	獣医内分泌代謝学	4③	2			1						
	獣医神経病学	4②	1							1		
	獣医血液・免疫病学	4①	1			1						
	獣医皮膚病学	4④	1			1						
	獣医眼科学	4④	1				1					
	動物行動治療学	4③	1			1						
	小動物内科学実習	3③	1			5	3	4	8	2		
	獣医外科学総論	3③	1			1						
	獣医手術学総論	3③	1			1						
	獣医麻酔科学	3③	1				1					
	獣医軟部組織外科学	3④	2			1						
	獣医運動器病学	4②	2						1			
	獣医臨床腫瘍学	4④	1			1						
	獣医画像診断学	3③	2				1		2			
	小動物外科学実習	3④	1.5			2	2	3	5	2		兼1
	獣医画像診断学実習	3④	1			1			2	5		
	産業動物臨床学	4①	2						1			
	馬臨床学	4④	1									兼1
	獣医臨床繁殖学	4③	2				1					
産業動物臨床実習	4②	2			3	1		1		1		
獣医臨床繁殖学実習	4③	1			2			1		2		
総合獣医学演習Ⅰ	4④	1			10	4	4	8		7	兼1	
総合獣医学演習Ⅱ	6③	1			4							
獣医療面接実習	4②	0.5			3	1	1	5				
総合参加型臨床実習	5①	6			7	5	4	11	3		兼1	
アドバンスサイエンス科目	分子細胞腫瘍学	5③		1		2		2				
	発生工学	5③		1		1			1			兼1
	獣医病態モデル学	5③		1		1	1		1			兼1
	創薬科学	5④		1		1						
	トランスレーショナル・リサーチ	5③		1		1						兼1
	比較動物機能科学	5④		1		2	1		1			
	修復・再生医療科学	6①		1		1	3	1	1			
国際ライフサイエンス産業政策論	6②		2		1						兼1	
ライフサイエンス特別実習	5③		1		2	6						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任										
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手											
国際獣医事科目	国際獣医事概論	5③		1		1													兼1		
	国際動物関連法規	5③		1		2															
	レギュラトリー科学	5③		1		2	1														
	国際動物疾病学	5④		1		2	1														
	国際野生動物管理学	6②		1		1															
	産業動物疾病予防管理学	5③		1																	
	産業動物疾病診断病理学	5④		1		1				1											
	セキュリティ学	5④		1		1															
	グローバル食品管理科学	5④		1		1															
	医薬品・食品安全性評価演習	6①		1			1														
	国際獣医法医学	6①		1		2				1											
	動物危機管理学	6②		2		1															
	国際生物資源学	6②		1		3	2													兼2	
	人獣共通感染症学実習	5②		1		4	2			1										兼1	
	公共獣医事情報解析実習	5③		1		4	1														
	臨床獣医科目	分子疫学	5③		1		2	2													
		獣医臨床疫学演習	6②		1		1	1			1										
		エキゾチックアニマル学	5③		1		2				1										
		抗菌薬バイオロジ	5③		1		1														
国際展示動物疾病学		5④		1		3															
トランスレーショナル・ペテリナリーメディスン		5④		1		1			2												
免疫関連疾病学		5④		1		1															
獣医高度臨床学		6①		1		2	1	2		1										兼1	
チーム獣医療学		6①		1			1			1										兼1	
総合臨床検査特別実習		5③		1		2	1			2										兼1	
獣医キャリアスキルアップ研修	5②	2			3																
総合科目	卒業論文Ⅰ	5③~④	2			28	15	4													
	卒業論文Ⅱ	6①~②	2			28	15	4													
	卒業論文Ⅲ	6③~④	2			28	15	4													
外国語教育科目	総合英語ⅠA	1①	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅠB	1②	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅡA	1③	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅡB	1④	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅢA	2①	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅢB	2②	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅣA	2③	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅣB	2④	0.5			1														兼7	
	発信英語ⅠA	1①	0.5							1										兼7	
	発信英語ⅠB	1②	0.5							1										兼7	
	発信英語ⅡA	1③	0.5							1										兼7	
	発信英語ⅡB	1④	0.5							1										兼7	
	発信英語ⅢA	2①	0.5		0.5					1										兼7	
	発信英語ⅢB	2②	0.5		0.5					1										兼7	
	発信英語ⅣA	2③	0.5		0.5					1										兼7	
	発信英語ⅣB	2④	0.5		0.5					1										兼7	
	専門英語ⅠA	3①	0.5		0.5	1	1				1										
	専門英語ⅠB	3②	0.5		0.5		1					2									
	専門英語ⅡA	3③	0.5		0.5	1		1	1												
	専門英語ⅡB	3④	0.5		0.5	1		2													
	応用英語ⅠA	3①	0.5		0.5	1														兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任										
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手											
国際獣医事科目	国際獣医事概論	5③		1		1															
	国際動物関連法規	5③		1		2															
	レギュラトリー科学	5③		1		2	1														
	国際動物疾病学	5④		1		2	1			1										兼1	
	国際野生動物管理学	6②		1		1															
	産業動物疾病予防管理学	5③		1																	
	産業動物疾病診断病理学	5④		1		1				1											
	セキュリティ学	5④		1		1															
	グローバル食品管理科学	5④		1		1															
	医薬品・食品安全性評価演習	6①		1			1														
	国際獣医法医学	6①		1		2				2											
	動物危機管理学	6②		2		1					1										
	国際生物資源学	6②		1		3	2													兼2	
	人獣共通感染症学実習	5②		1		4	2			3										兼1	
	公共獣医事情報解析実習	5③		1		4	1			3											
	臨床獣医科目	分子疫学	5③		1		2	2													兼1
		獣医臨床疫学演習	6②		1		1	1			1										兼1
		エキゾチックアニマル学	5③		1		2				1										
		抗菌薬バイオロジ	5③		1		1														
国際展示動物疾病学		5④		1		3															
トランスレーショナル・ペテリナリーメディスン		5④		1		1			2												
免疫関連疾病学		5④		1		1															
獣医高度臨床学		6①		1		2	1	2		1										兼1	
チーム獣医療学		6①		1			1			1										兼1	
総合臨床検査特別実習		5③		1		2	1			2										兼1	
獣医キャリアスキルアップ研修	5②	2			3														兼1		
総合科目	卒業論文Ⅰ	5③~④	2			24	11	4												兼2	
	卒業論文Ⅱ	6①~②	2			24	11	4												兼2	
	卒業論文Ⅲ	6③~④	2			24	11	4												兼2	
外国語教育科目	総合英語ⅠA	1①	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅠB	1②	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅡA	1③	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅡB	1④	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅢA	2①	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅢB	2②	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅣA	2③	0.5			1														兼7	
	総合英語ⅣB	2④	0.5			1														兼7	
	発信英語ⅠA	1①	0.5							1										兼6	
	発信英語ⅠB	1②	0.5							1										兼6	
	発信英語ⅡA	1③	0.5							1										兼6	
	発信英語ⅡB	1④	0.5							1										兼6	
	発信英語ⅢA	2①	0.5		0.5					1										兼6	
	発信英語ⅢB	2②	0.5		0.5					1										兼6	
	発信英語ⅣA	2③	0.5		0.5					1										兼6	
	発信英語ⅣB	2④	0.5		0.5					1											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	文章表現法基礎編A	1①・③		1							兼1
	文章表現法基礎編B	1②・④		1							兼1
	プレゼンテーション基礎編A	1①・③		1							兼1
	プレゼンテーション基礎編B	1②・④		1							兼1
	教養演習A	1①・③		1							兼1
	教養演習B	1②・④		1							兼1
	企業と人間A	1①・③		1							兼1
	企業と人間B	1②・④		1							兼1
	キャリア形成講座A	1①・③		1							兼3
	キャリア形成講座B	1②・④		1							兼3
	学びの基礎論A	1①・③		1							兼1
	学びの基礎論B	1②・④		1							兼1
	企業情報特論A	2①		1							兼1
	企業情報特論B	2②		1							兼1
	インターンシップ概論	2①・②・③・④		1							兼3
	インターンシップA	2①・②・③・④		1							兼3
	インターンシップB	2①・②・③・④		2							兼3
	インターンシップC	2①・②・③・④		3							兼3
	文章表現法応用編A	2①・③		1							兼1
	文章表現法応用編B	2②・④		1							兼1
プレゼンテーション応用編A	2①・③		1							兼1	
プレゼンテーション応用編B	2②・④		1							兼1	
科学技術教育科目	現代人の科学A	1②・④		1	1						兼1
	現代人の科学B	1①・②		1							兼1
	現代人の科学C	1①・③		1	1						兼1
	現代人の科学D	1①・③		1							兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	文章表現法基礎編A	1①・③		1							兼1
	文章表現法基礎編B	1②・④		1							兼1
	プレゼンテーション基礎編A	1①・③		1							兼1
	プレゼンテーション基礎編B	1②・④		1							兼1
	教養演習A	1①・③		1							兼1
	教養演習B	1②・④		1							兼1
	企業と人間A	1①・③		1							兼1
	企業と人間B	1②・④		1							兼1
	キャリア形成講座A	1①・③		1							兼3
	キャリア形成講座B	1②・④		1							兼3
	学びの基礎論A	1①・③		1							兼1
	学びの基礎論B	1②・④		1							兼1
	企業情報特論A	2①		1							兼1
	企業情報特論B	2②		1							兼1
	インターンシップ概論	2①・②・③・④		1							兼3
	インターンシップA	2①・②・③・④		1							兼3
	インターンシップB	2①・②・③・④		2							兼3
	インターンシップC	2①・②・③・④		3							兼3
	文章表現法応用編A	2①・③		1							兼1
	文章表現法応用編B	2②・④		1							兼1
プレゼンテーション応用編A	2①・③		1							兼1	
プレゼンテーション応用編B	2②・④		1							兼1	
科学技術教育科目	現代人の科学A	1②・④		1	1						兼1
	現代人の科学B	1①・②		1							兼1
	現代人の科学C	1①・③		1	1						兼1
	現代人の科学D	1①・③		1							兼1

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「動物関連キャリア概論」を担当する専任教員のうち、教授2名、准教授2名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、現在、2名の候補者について平成30年第1回AC教員審査受審中、残りの補充教員2名は現在未定である。1年次①期より開講するため、今年度は4名の兼任教員を配置して対応する。これにより、専任教員等の配置は「教授12」「准教授5」「兼1」から「教授10」「准教授3」「兼5」になる。
- ・「生命科学実習」を担当する専任教員のうち、准教授2名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、現在2名の候補者について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。1年次①期より開講するため、今年度は兼任教員2名を配置して対応する。これにより、専任教員等の配置は「教授4」「准教授4」「講師1」「助教7」から、「教授4」「准教授2」「講師1」「助教7」「兼2」になる。
- ・「生物物理学」を担当する専任教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、現在1名の候補者について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。1年次③期より開講するため、審査の結果「可」となれば専任教員として担当するが、現在のところ兼任教員として配置する。このため、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」「兼1」となる。
- ・「情報リテラシー」を担当する専任教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員1名を補充する方針であり、今年度中にAC教員審査を受審する予定である。現在、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」になる。
- ・「生物統計」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員1名を補充する方針であり、今年度中にAC教員審査を受審する予定である。現在、専任教員等の配置は「准教授1」から「准教授0（空欄）」になる。
- ・「獣医生理学実習」を担当する専任の准教授2名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員2名を補充する方針であり、現在、候補者1名については平成30年第1回AC教員審査を受審中である。1年次④期より開講するためこの候補者を兼任教員として配置したが、審査の結果「可」となれば、専任教員として配置する。残りの補充教員1名は未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授2」「准教授3」「講師1」「助教1」から「教授2」「准教授1」「講師1」「助教1」「兼1」になる。
- ・「獣医組織学実習」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。1年次③期に開講する科目であるが、この候補者は平成31年4月の就任予定であるため、今年度は兼任教員1名を配置した。これにより専任教員等の配置は「教授1」「准教授2」「助教1」から「教授1」「准教授1」「助教1」「兼1」になる。
- ・「獣医微生物学実習」を担当する専任教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより専任教員等の配置は「教授6」「准教授2」「助教1」「兼1」から「教授5」「准教授2」「助教1」「兼1」になる。
- ・「獣医病理解剖学実習」を担当する専任准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として担当する。これにより、専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教1」から「教授1」「准教授0（空欄）」「助教1」になる。
- ・「獣医病理学実習」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として担当する。これにより、専任教員等の配置は「教授2」「准教授1」「助教2」から「教授2」「准教授0（空欄）」「助教2」になる。
- ・「魚病学」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「准教授1」から「准教授0（空欄）」になる。
- ・「魚病学実習」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教2」から「教授1」「准教授0（空欄）」「助教2」になる。
- ・「獣医公衆衛生学総論」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」になる。
- ・「獣医公衆衛生学実習」を担当する専任の教授1名、准教授2名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員3名を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授3」「准教授4」「助教2」から「教授2」「准教授2」「助教2」になる。
- ・「食品衛生学実習」を担当する専任の教授1名、准教授2名、兼任教員（獣医保健看護学科専任准教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員3名及び兼任教員を補充する方針であり、現在1名について平成30年AC教員審査受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として就任するが、現在は兼任教員として配置する。残りの専任補充教員2名及び兼任教員1名は未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授5」「准教授3」「兼1」から「教授4」「准教授1」「兼1」になる。
- ・「環境衛生学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」になる。
- ・「獣医疫学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果、「可」となれば専任教員として就任するが、現在は兼任教員として配置する。これにより、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」「兼1」になる。
- ・「生産農学概論」を担当する兼任教員（獣医保健看護学科の専任准教授）1名が一身上の都合により辞退した。獣医保健看護学科において後任の専任教員を補充する予定であり、今年度中にAC教員審査を受審、審査の結果「可」となれば兼任教員として配置する。1年次③期より開講する科目であるため、今年度は開講期までに兼任教員を配置する予定であるが、現在のところ未定である。これにより、兼任・兼任の配置は「兼1」から「兼0（空欄）」になる。
- ・「遺伝育種学」を担当する専任の教授1名が死去、兼任教員（獣医保健看護学科の専任教授）1名が辞退した。後任については、専任教員1名、及び獣医保健看護学科における後任の専任教員補充による兼任教員を配置する方針であるが、現在のところいずれも未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授1」「兼1」から「教授0（空欄）」「兼0（空欄）」になる。
- ・「動物衛生学実習」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退、教授1名が死去、准教授1名、兼任教員1名（獣医保健看護学科の専任准教授）が辞退した。後任については、専任教員3名、及び獣医保健看護学科における後任の専任教員補充による兼任教員を配置する方針であるが、現在のところいずれも未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授5」「准教授2」「助教3」「兼2」から「教授3」「准教授1」「助教3」「兼1」になる。

- ・「飼料作物学」を担当する兼任教員（獣医保健看護学科専任教授）1名が一身上の都合により辞退した。獣医保健看護学科における後任補充により兼任教員を配置する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、兼任・兼任の配置は「兼1」から「兼0（空欄）」になる。
- ・「栄養学」を担当する兼任教員（平成32年度より兼任准教授）の平成30年度の担当が一身上の都合により不可能となった。今年度は後任の兼任教員1名を配置し対応する。なお、兼任・兼任は「兼1」であり変更はない。
- ・「小動物内科学実習」を担当する専任の助教1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置する。これにより、専任教員等の配置は「教授5」「准教授3」「講師4」「助教9」「助手2」から、「教授5」「准教授3」「講師4」「助教8」「助手2」になる。
- ・「獣医臨床繁殖学」を担当する専任教授1名が死去した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」になる。
- ・「産業動物臨床実習」を担当する専任の助教1名、兼任教員（獣医保健看護学科の専任教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任については、専任教員及び兼任教員を配置する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。また、兼任教員1名は獣医保健看護学科における専任教員を補充する方針であるが、現在未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授3」「准教授1」「助教2」「兼1」から「教授3」「准教授1」「助教1」「兼0（空欄）」になる。
- ・「獣医臨床繁殖学実習」を担当する専任教授1名が死去、助教1名、兼任教員2名（獣医保健看護学科専任の教授及び准教授）が一身上の都合により辞退した。後任については専任教員及び兼任教員を補充する方針であり、専任の教員候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。残り1名の専任教員、2名の兼任教員（獣医保健看護学科専任教員）は現在未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授2」「助教3」「兼2」から「教授1」「助教2」「兼0（空欄）」になる。
- ・「総合獣医学演習Ⅰ」を担当する専任の教授1名が死去、教授1名、助教1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員3名を補充する方針であり、候補者2名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。この2名のうち1名を今年度は兼任教員として配置した。残りの1名については現在未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授10」「准教授4」「講師4」「助教8」から「教授8」「准教授4」「講師4」「助教7」「兼1」になる。
- ・「総合獣医学演習Ⅱ」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授4」から「教授3」になる。
- ・「総合参加型臨床実習」を担当する専任の准教授1名、助教1名、兼任教員1名（獣医保健看護学科専任の准教授）が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員2名及び兼任教員を補充する方針であり、専任教員候補者2名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。獣医保健看護学科における専任教員の補充により兼任教員を配置する計画であるが、現在未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授7」「准教授5」「講師4」「助教11」「助手3」「兼1」から「教授7」「准教授4」「講師4」「助教10」「助手3」「兼0（空欄）」になる。
- ・「分子細胞腫瘍学」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授2」「准教授1」「講師2」から「教授2」「准教授0（空欄）」「講師2」になる。
- ・「トランスレーショナル・リサーチ」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置するが、現在、兼任教員として配置している。これにより、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」「兼1」になる。
- ・「国際ライフサイエンス産業政策論」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置するが、現在、兼任教員として配置している。これにより、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」「兼1」になる。
- ・「ライフサイエンス特別実習」を担当する専任の准教授3名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員3名を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中、1名は今年度中にAC教員審査を受審予定、残りの1名は未定である。これにより専任教員等の配置は「教授2」「准教授6」から「教授2」「准教授3」になる。
- ・「国際動物疾病学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置するが、現在のところ兼任教員として配置している。これにより専任教員等の配置は「教授2」「准教授1」から「教授1」「准教授1」「兼1」になる。
- ・「産業動物疾病予防管理学」を担当する兼任教員（獣医保健看護学科の専任教授1名）が一身上の都合により辞退した。獣医保健看護学科における後任の専任教員補充により兼任教員を配置する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、兼任・兼任の配置は「兼1」から「兼0（空欄）」になる。
- ・「セキュリティ学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」になる。
- ・「グローバル食品管理科学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授1」から「教授0（空欄）」になる。
- ・「国際生物資源学」を担当する専任の教授1名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員2名を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授3」「准教授2」「兼2」から「教授2」「准教授1」「兼2」になる。
- ・「人獣共通感染症学実習」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授4」「准教授2」「助教1」「兼1」から、「教授3」「准教授2」「助教1」「兼1」になる。
- ・「公共獣医事情解析実習」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在のところ未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授4」「准教授1」から「教授3」「准教授1」になる。
- ・「分子疫学」を担当する専任の教授1名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員2名を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置するが現在は兼任教員として配置している。残りの1名については今年度中にAC教員審査を受審予定である。これにより、専任教員等の配置は「教授2」「准教授2」から「教授1」「准教授1」「兼1」になる。

- ・「獣医臨床疫学演習」を担当する専任の教授1名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員2名を補充する方針であり、1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置するが、現在のところ兼任教員として配置している。残りの1名については今年度中にAC教員審査を受審予定である。これにより専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教1」から「教授0（空欄）」「准教授0（空欄）」「助教1」「兼1」になる。
- ・「獣医キャリアスキルアップ研修」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、候補者1名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置するが、現在は兼任教員として配置している。これにより専任教員等の配置は「教授3」から「教授2」、「兼1」になる。
- ・「卒業論文Ⅰ」、「卒業論文Ⅱ」、「卒業論文Ⅲ」を担当する専任の教授3名、准教授4名が一身上の都合により辞退し、専任の教授1名が死去した。後任の専任教員8名を補充する方針であり、候補者3名について平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置する。候補者3名のうち2名は現在、兼任教員として配置している。また、1名について今年度中にAC教員審査を受審する予定である。残りの4名の補充については現在未定である。これにより、「卒業論文Ⅰ」、「卒業論文Ⅱ」、「卒業論文Ⅲ」の専任教員等の配置は「教授2」「准教授1」「講師4」から「教授2」「准教授1」「講師4」「兼2」になる。
- ・クラス編制の調整により兼任講師1名を担当から外したため「発信英語ⅠA」、「発信英語ⅠB」、「発信英語ⅡA」、「発信英語ⅡB」、「発信英語ⅢA」、「発信英語ⅢB」、「発信英語ⅣA」、「発信英語ⅣB」の兼任・兼担の配置を「兼7」から「兼6」へ変更する。
- ・「専門英語ⅠB」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、平成30年第1回AC教員審査を受審中である。審査の結果「可」となれば専任教員として配置するが、現在のところ兼任教員として配置している。これにより専任教員等の配置は「准教授1」「助教2」から「准教授0（空欄）」「助教2」「兼1」になる。
- ・「専門英語ⅡA」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であり、今年度中にAC教員審査を受審する予定である。現在のところ専任教員等の配置は「教授1」「講師1」「助教1」から「教授0（空欄）」「講師1」「助教1」になる。
- ・「専門英語ⅡB」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任の専任教員を補充する方針であるが、現在未定である。これにより、専任教員等の配置は「教授1」「准教授2」から「教授1」「准教授1」になる。
- ・「健康の科学」「生涯スポーツ」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退したため兼任教員1名を配置した。これにより、専任教員等の配置は「准教授1」から「准教授0（空欄）」「兼1」になる。
- ・「スポーツとフィールド科学（エコツーリズムのための野外スポーツ）」を担当する兼任教員について、クラス編制の調整により兼任教員を1名を追加したため、兼任・兼担の配置は「兼4」から「兼5」になる。
- ・「スポーツとフィールド科学（スキー）」を担当する兼任教員について、クラス編制の調整により兼任教員を2名追加したため、兼任・兼担の配置は「兼5」から「兼7」になる。
- ・「スポーツとフィールド科学（エコツーリズムのための野外スポーツ）」、「スポーツとフィールド科学（スキー）」は、全学共通の科目であり、全学の教養教育科目はセメスターで開講しているため、開講期をセメスター扱いへ変更する。
- ・「現代人の科学D」を担当する兼任教員1名が平成30年4月1日より特任教授に就任したため、兼任教員から兼担教授に変更となる。兼任・兼担は「兼1」で変更はない。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
139 科目	132 科目	0 科目	271 科目	139 科目 [0]	132 科目 [0]	0 科目 [0]	271 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	未開講科目なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	廃止科目なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{271} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用期間及び面積 1年 60㎡ 3年 224㎡ 30年 14,731㎡ 60年 15,974㎡					
	校舎敷地	162,967㎡	0㎡	0㎡	162,967㎡						
	運動場用地	147,175㎡	0㎡	0㎡	147,175㎡						
	小 計	310,142㎡	0㎡	0㎡	310,142㎡						
	そ の 他	645,066㎡	0㎡	0㎡	645,066㎡						
	合 計	955,208㎡	0㎡	0㎡	955,208㎡						
(2) 校舎		専 用 (124,689㎡)	共 用 (0㎡)	共用する他の学校等の専用 (0㎡)	計 (124,689㎡)						
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	8室	9室	22室	1室 (補助職員 0人)	0 (補助職員 0人)						
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数							
	獣医学部			55 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	機械・器具の点数について、教育研究の充実のため教育研究の実施に伴う消耗品を購入したため(30)			
	獣医学部	13,673 [2,250] (7,924 [1,508])	55 [15] (50 [15])	12 [12] (12 [12])	752 (481)	30,587 18,241 (22,143)	210 (0)				
	計	13,673 [2,250] (7,924 [1,508])	55 [15] (50 [15])	12 [12] (12 [12])	752 (481)	30,587 18,241 (22,143)	210 (0)				
(6) 図書館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数							
	2,160㎡	229席		102,758冊							
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要									
	2,768㎡	テニスコート3面 運動場 8,214㎡		トレーニングルーム 1室							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	教員1人 当り研究 費等	獣医学科	600千円	600千円	図書 購入 費	獣医学科	89,930千円	93,580千円	23,886千円	申請時の物品購入契約書との齟齬による誤記を修正している(経費の見積金額には変更は生じていない。)その上で、教育の充実のため、1年次、2年次で必要な消耗品、ネット等回線経費、保守料を計上したことによる変更(30)
			獣医保健看護学科	600千円	600千円		獣医保健看護学科	9,350千円	2,140千円	107千円	
		共同研究 費等	獣医学科	1,000千円	1,000千円	設備 購入 費	獣医学科	1,926,044千円 1,548,998千円	1,162,100千円 1,615,301千円	36,000千円	
			獣医保健看護学科	1,000千円	1,000千円		獣医保健看護学科	481,511千円 587,250千円	290,525千円 403,825千円	9,000千円	
	学生1人 当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		獣医学科	2,500千円	2,436千円	2,436千円	2,436千円	2,436千円	2,436千円			
		獣医保健看護学科	1,530千円	1,470千円	1,470千円	1,470千円	—千円	—千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料								

(注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	岡山理科大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
理学部									
応用数学科	4	110	—	410	学士(理学)	1.01	昭和39年度	岡山市北区理大町1番1号	平成29年度入学定員増(15人)
化学科	4	75	—	290	学士(理学)	0.86	昭和39年度	同上	平成29年度入学定員増(5人)
応用物理学科	4	75	—	290	学士(理学)	0.81	昭和41年度	同上	
物理科学専攻	4	45	—	170	学士(理学)	1.01	平成14年度	同上	平成29年度入学定員増(5人)
臨床工学専攻	4	30	—	120	学士(理学)	0.54	平成14年度	同上	平成27年度入学定員減(△10人)
基礎理学科	4	90	—	330	学士(理学)	1.05	昭和50年度	同上	平成29年度入学定員増(15人)
生物化学科	4	95	—	360	学士(理学)	0.96	昭和63年度	同上	平成29年度入学定員増(10人)
臨床生命科学科	4	95	—	360	学士(理学)	0.95	平成16年度	同上	平成29年度入学定員増(10人)
動物学科	4	45	—	170	学士(理学)	1.05	平成20年度	同上	平成29年度入学定員増(5人)
工学部									
バイオ・応用化学科	4	85	—	320	学士(工学)	0.96	昭和61年度	同上	平成29年度入学定員増(10人)
機械システム工学科	4	90	—	350	学士(工学)	1.00	昭和61年度	同上	平成29年度入学定員増(5人)
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士(工学)	1.02	昭和61年度	同上	
情報工学科	4	95	—	360	学士(工学)	1.08	平成4年度	同上	平成29年度入学定員増(10人)
知能機械工学科	4	55	—	220	学士(工学)	0.95	平成17年度	同上	
生命医療工学科	4	60	—	240	学士(工学)	0.85	平成19年度	同上	
			3年次						
建築学科	4	75	5	300	学士(工学)	1.07	平成23年度	同上	平成29年度入学定員増(5人)
総合情報学部									
情報科学科	4	100	—	360	学士(総合情報学)	1.09	平成9年度	同上	平成29年度入学定員増(20人)
社会情報学科	4	—	—	—	学士(総合情報学)	—	平成9年度	同上	平成29年度より学生募集停止
生物地球学部									
生物地球学科	4	140	—	520	学士(理学)	1.08	平成24年度	同上	平成29年度入学定員増(20人)
教育学部									
初等教育学科	4	70	—	210	学士(教育学)	1.09	平成28年度	同上	
中等教育学科	4	60	—	180	学士(教育学)	1.01	平成28年度	同上	
経営学部									
経営学科	4	130	—	260	学士(経営学)	1.08	平成29年度	同上	
獣医学部									
						1.05			6年制学科
						0.65			4年制学科
獣医学科	6	140	—	140	学士(獣医学)	1.05	平成30年度	今治市いこいの丘1-3	
獣医保健看護学科	4	60	—	60	学士(獣医保健看護学)	0.65	平成30年度	同上	

大学の名称	岡山理科大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
理学研究科									
応用数学専攻									
修士課程	2	6	—	12	修士(理学)	1.41	昭和55年度	岡山市北区理大町1番1号	
化学専攻									
修士課程	2	16	—	32	修士(理学)	0.43	昭和49年度	同上	
応用物理学専攻									
修士課程	2	13	—	26	修士(理学)	0.41	昭和49年度	同上	
総合理学専攻									
修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.62	昭和63年度	同上	
生物化学専攻									
修士課程	2	13	—	26	修士(理学)	0.26	平成4年度	同上	
臨床生命科学専攻									
修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.83	平成20年度	同上	
動物学専攻									
修士課程	2	4	—	8	修士(理学)	0.62	平成24年度	同上	
応用数学専攻									
博士課程(後期)	3	4	—	12	博士(理学)	0.08	昭和62年度	同上	
材質理学専攻									
博士課程(後期)	3	9	—	27	博士(理学)	0.18	昭和53年度	同上	
工学研究科									
応用化学専攻									
修士課程	2	13	—	26	修士(工学)	0.26	平成2年度	同上	
機械システム工学専攻									
修士課程	2	13	—	26	修士(工学)	0.57	平成2年度	同上	
電子工学専攻									
修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37	平成2年度	同上	
情報工学専攻									
修士課程	2	10	—	20	修士(工学)	0.30	平成8年度	同上	
知能機械工学専攻									
修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.81	平成21年度	同上	
生体医工学専攻									
修士課程	2	6	—	12	修士(工学)	0.66	平成23年度	同上	
建築学専攻									
修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.68	平成23年度	同上	
システム科学専攻									
博士課程(後期)	3	5	—	15	博士(工学)	0.73	平成2年度	同上	
総合情報研究科									
情報科学専攻									
修士課程	2	7	—	14	修士(総合情報)	0.35	平成13年度	同上	
社会情報専攻									
修士課程	2	6	—	12	修士(総合情報)	0.83	平成13年度	同上	

大学の名称	岡山理科大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
数理・環境システム専攻 博士課程（後期）	3	2	—	6	博士（学術）	0.33	平成15年度	岡山市北区理大町1番1号	
生物地球科学研究科 生物地球科学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士（理学）	1.08	平成28年度	同上	
大学の名称	倉敷芸術科学大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
芸術学部			3年次						
メディア映像学科	4	50	2	204	学士（芸術）	0.96	平成16年度	倉敷市連島町西之浦2640	
デザイン芸術学科	4	55	—	220	学士（芸術）	0.70	平成20年度	同上	
産業科学技術学部			3年次						
経営情報学科	4	—	—	—	学士（産業科学技術）	—	平成23年度	同上	平成29年度より学生募集停止、3年次編入学生募集停止
生命科学部									
生命科学科	4	50	—	200	学士（生命科学）	0.77	平成16年度	同上	
健康科学科	4	80	—	335	学士（健康科学）	0.73	平成16年度	同上	平成30年度入学定員減（△5人）
健康科学専攻	4	55	—	220	学士（健康科学）	0.92	平成26年度	同上	
鍼灸専攻	4	25	—	115	学士（健康科学）	0.39	平成26年度	同上	
			3年次						
動物生命科学科	4	60	2	244	学士（生命科学）	0.74	平成18年度	同上	
生命医科学科	4	50	—	200	学士（生命科学）	1.11	平成20年度	同上	
危機管理学部									
危機管理学科	4	90	—	180	学士（危機管理）	0.58	平成29年度	同上	

大学 の 名 称	倉敷芸術科学大学大学院								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入 学 員 定 員	編入学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は 称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
芸術研究科 美術専攻 修士課程	2	10	—	20	修士（芸術）	0.40	平成11年度	倉敷市連島町西之浦2640	
芸術制作表現専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士（芸術）	0.16	平成13年度	同上	
産業科学技術研究科 計算機科学専攻 博士課程（後期）	3	—	—	—	博士（工学）	—	平成13年度	同上	平成29年度より学生募集停止
機能物質化学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士（産業科学技術）	0.24	平成11年度	同上	
博士課程（後期）	3	2	—	6	博士（工学）	0.00	平成13年度	同上	
人間文化研究科 人間文化専攻 修士課程	2	15	—	30	修士（学術）	0.19	平成11年度	同上	
大学院（通信制） 芸術研究科 美術専攻（通信制） 修士課程	2	10	—	20	修士（芸術）	0.05	平成14年度	同上	
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻（通信制） 修士課程	2	20	—	40	修士（産業科学技術）	0.00	平成14年度	同上	
人間文化研究科 人間文化専攻（通信制） 修士課程	2	30	—	60	修士（学術）	0.03	平成14年度	同上	
大学 の 名 称	千葉科学大学								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入 学 員 定 員	編入学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は 称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
薬学部						1.00			6年制学科
薬学科	6	120	—	720	学士（薬学）	0.24			4年制学科
生命薬科学科	4	35	—	155	学士（生命薬科学）	1.00	平成18年度	千葉県銚子市潮見町3	
危機管理学部						0.24	平成22年度	同上	平成30年度入学定員減（△5人）
危機管理システム学科	4	100	—	400	学士（危機管理）	0.66			
環境危機管理学科	4	40	—	160	学士（危機管理）	0.76	平成16年度	同上	
医療危機管理学科	4	80	—	320	学士（危機管理）	0.41	平成24年度	同上	
航空技術危機管理学科	4	40	—	160	学士（危機管理）	0.89	平成21年度	同上	
動物危機管理学科	4	40	—	160	学士（危機管理）	0.27	平成22年度	同上	
看護学部						0.59	平成24年度	同上	
看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	1.03			
						1.03	平成26年度	同上	

大学の名称	千葉科学大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	5	—	5	修士 (看護学)	0.80	平成30年度	千葉県銚子市潮見町3	
薬学研究科 薬学専攻 博士課程	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.08	平成24年度	同上	
薬科学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (薬科学)	0.05	平成22年度	同上	
博士課程（後期）	3	5	—	15	博士 (薬科学)	0.06	平成22年度	同上	
危機管理学研究科 危機管理学専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 (危機管理学)	1.10	平成20年度	同上	
博士課程（後期）	3	3	—	9	博士 (危機管理学)	0.33	平成22年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<獣医学部 獣医学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	吉川 泰弘 (70) (高) <平成30年4月>	専	教授	吉川 泰弘 (71) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医事法規 獣医微生物学実習 動物感染症学※ 人獣共通感染症学 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 家禽疾病学 動物衛生学実習 国際獣医事概論 国際動物関連法規※ 動物危機管理学 国際生物資源学※ 人獣共通感染症学実習 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 現代人の科学C			動物関連キャリア概論※ 獣医事法規 獣医微生物学実習 動物感染症学※ 人獣共通感染症学 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 家禽疾病学 動物衛生学実習 国際獣医事概論 国際動物関連法規※ 動物危機管理学 国際生物資源学※ 人獣共通感染症学実習 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 現代人の科学C
専	教授	北川 均 (65) (高) <平成30年4月>	専	教授	北川 均 (66) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医免疫学実習 獣医臨床薬理学※ 獣医内科学総論※ 獣医呼吸・循環器病学※ 獣医消化器病学 獣医皮膚病学 小動物内科学実習 産業動物臨床実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合獣医学演習Ⅱ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 獣医高度臨床学※ 獣医キャリアスキルアップ 研修 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ			動物関連キャリア概論※ 獣医免疫学実習 獣医臨床薬理学※ 獣医内科学総論※ 獣医呼吸・循環器病学※ 獣医消化器病学 獣医皮膚病学 小動物内科学実習 産業動物臨床実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合獣医学演習Ⅱ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 獣医高度臨床学※ 獣医キャリアスキルアップ 研修 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	菅又 昌実 (64) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 情報リテラシー 獣医微生物学実習 獣医公衆衛生学総論 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 環境衛生学 動物衛生学実習 総合獣医学演習Ⅱ※ セキュリティ学 グローバル食品管理科学 国際生物資源学※ 人獣共通感染症学実習 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	手島 玲子 (62) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 食品衛生学 食品衛生学実習 レギュラトリー科学※ 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	黒木 俊郎 (59) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医微生物学実習 医動物学実習 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 人獣共通感染症学実習 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	飯田 貴次 (63) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 魚病学実習 水産増養殖学 国際展示動物疾病学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	手島 玲子 (63) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 食品衛生学 食品衛生学実習 レギュラトリー科学※ 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	黒木 俊郎 (60) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医微生物学実習 医動物学実習 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 人獣共通感染症学実習 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	飯田 貴次 (64) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 魚病学実習 水産増養殖学 国際展示動物疾病学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	樽林 陽一 (64) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 生物物理学 トランスレーショナル・ リサーチ 国際ライフサイエンス産 業政策論 分子疫学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	俵 修一 (61) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 化学 創薬科学 抗菌薬バイオロジー 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	尾崎 博 (65) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医薬理学総論 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医臨床薬理学※ 総合獣医学演習Ⅰ※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ フレッシュマンセミナー
専	教授	水野 理介 (52) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 獣医薬理学各論 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医臨床薬理学※ ライフサイエンス特別実 習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	柴原 壽行 (66) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医微生物学実習 医動物学 医動物学実習 動物衛生学実習 国際動物関連法規※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	俵 修一 (62) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 化学 創薬科学 抗菌薬バイオロジー 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	尾崎 博 (66) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医薬理学総論 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医臨床薬理学※ 総合獣医学演習Ⅰ※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ フレッシュマンセミナー
専	教授	水野 理介 (53) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 獣医薬理学各論 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医臨床薬理学※ ライフサイエンス特別実 習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	柴原 壽行 (67) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医微生物学実習 医動物学 医動物学実習 動物衛生学実習 国際動物関連法規※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	宇根 有美 (ユミ) (62) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医解剖学実習 獣医病理学総論 獣医病理学各論 獣医病理解剖学実習 獣医病理学実習 総合獣医学演習Ⅱ※ 総合参加型臨床実習 産業動物疾病診断病理学※ 国際獣医法医学※ エキゾチックアニマル学※ 国際展示動物疾病学※ 獣医キャリアスキルアップ研修 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
		岩田 恵理 (53) <平成30年4月>
		生命倫理学 人間・動物関係学 動物行動学 動物行動治療学 総合獣医学演習Ⅰ※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	江藤 真澄 (51) <平成30年4月>
		獣医分子生物学 生命科学実習 放射線生物学※ 獣医生化学 獣医生化学実習 獣医生理学実習 分子細胞腫瘍学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
		九郎丸 正道 (63) (高) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医形態機能学Ⅰ 獣医解剖学実習 獣医組織学実習 総合獣医学演習Ⅱ※ 比較動物機能科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	宇根 有美 (ユミ) (63) (高) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医解剖学実習 獣医病理学総論 獣医病理学各論 獣医病理解剖学実習 獣医病理学実習 総合獣医学演習Ⅱ※ 総合参加型臨床実習 産業動物疾病診断病理学※ 国際獣医法医学※ エキゾチックアニマル学※ 国際展示動物疾病学※ 獣医キャリアスキルアップ研修 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
		岩田 恵理 (54) <平成30年4月>
		生命倫理学 人間・動物関係学 動物行動学 動物行動治療学 総合獣医学演習Ⅰ※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	江藤 真澄 (52) <平成30年4月>
		獣医分子生物学 生命科学実習 放射線生物学※ 獣医生化学 獣医生化学実習 獣医生理学実習 分子細胞腫瘍学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
		九郎丸 正道 (64) (高) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医形態機能学Ⅰ 獣医解剖学実習 獣医組織学実習 総合獣医学演習Ⅱ※ 比較動物機能科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	汾陽 光盛 (64) (高) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医生理学 獣医生理学実習 比較動物機能科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	西木 禎一 (52) <平成31年4月>
		獣医薬理学実習 獣医毒性学 獣医毒性学実習 分子細胞腫瘍学※ 獣医病態モデル学※ レギュラトリー科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	森川 茂 (58) <平成31年4月>
		獣医微生物学※ 獣医微生物学実習 国際動物疾病学※ 人獣共通感染症学実習 分子疫学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	邊見 弘明 (44) <平成31年4月>
		獣医実験動物学実習 獣医免疫学 獣医免疫学実習 発生工学※ ライフサイエンス特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	柳井 徳磨 (63) (高) <平成31年4月>
		獣医微生物学実習 獣医病理学実習 野生動物学 動物感染症学※ 国際野生動物管理学 国際獣医法医学※ 国際生物資源学※ エキゾチックアニマル学※ 国際展示動物疾病学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 現代人の科学A

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	汾陽 光盛 (65) (高) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医生理学 獣医生理学実習 比較動物機能科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	西木 禎一 (53) <平成31年4月>
		獣医薬理学実習 獣医毒性学 獣医毒性学実習 分子細胞腫瘍学※ 獣医病態モデル学※ レギュラトリー科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	森川 茂 (59) <平成31年4月>
		獣医微生物学※ 獣医微生物学実習 国際動物疾病学※ 人獣共通感染症学実習 分子疫学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	邊見 弘明 (45) <平成31年4月>
		獣医実験動物学実習 獣医免疫学 獣医免疫学実習 発生工学※ ライフサイエンス特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	柳井 徳磨 (64) (高) <平成31年4月>
		獣医微生物学実習 獣医病理学実習 野生動物学 動物感染症学※ 国際野生動物管理学 国際獣医法医学※ 国際生物資源学※ エキゾチックアニマル学※ 国際展示動物疾病学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 現代人の科学A

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	柳井 徳磨 (63) <平成30年4月>
		現代人の科学A
専	教授	杉山 晶彦 (46) <平成32年4月>
		獣医免疫学実習 臨床検査学入門 獣医臨床薬理学※ 獣医呼吸・循環器病学※ 獣医血液・免疫病学 小動物内科学実習 産業動物臨床実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 免疫関連疾病学 総合臨床検査特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	足立 吉数 (68) (高) <平成32年4月>
		食品衛生学実習 動物衛生学 動物衛生学実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	門平 睦代 (61) (高) <平成32年4月>
		獣疫学 総合獣医学演習Ⅰ※ 国際動物疾病学※ 獣医臨床疫学演習※ 獣医キャリアスキルアップ研修 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 専門英語ⅡA
専	教授	前多 敬一郎 (61) (高) <平成33年4月>
		遺伝育種学※ 動物衛生学実習 獣医臨床繁殖学 獣医臨床繁殖学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
兼任	講師	前多 敬一郎 (59) <平成31年4月>
		遺伝育種学※ 動物衛生学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	柳井 徳磨 (64) <平成30年4月>
		現代人の科学A
専	教授	杉山 晶彦 (47) <平成32年4月>
		獣医免疫学実習 臨床検査学入門 獣医臨床薬理学※ 獣医呼吸・循環器病学※ 獣医血液・免疫病学 小動物内科学実習 産業動物臨床実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 免疫関連疾病学 総合臨床検査特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	足立 吉数 (69) (高) <平成32年4月>
		食品衛生学実習 動物衛生学 動物衛生学実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	星 史雄 (55) <平成32年4月>
		獣医臨床栄養学 獣医内科学総論※ 獣医泌尿生殖器病学 獣医内分泌代謝学 小動物内科学実習 産業動物臨床実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 トランスレーショナル・ ペテリナリーメディシン※ 獣医高度臨床学※ 総合臨床検査特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	山添 和明 (56) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医外科学総論 獣医手術学総論 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 修復・再生医療科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	岡村 泰彦 (43) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医軟部組織外科学 獣医臨床腫瘍学 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	稲葉 俊夫 (65) (高) <平成32年4月>
		獣医臨床繁殖学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	星 史雄 (56) <平成32年4月>
		獣医臨床栄養学 獣医内科学総論※ 獣医泌尿生殖器病学 獣医内分泌代謝学 小動物内科学実習 産業動物臨床実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 トランスレーショナル・ ペテリナリーメディシン※ 獣医高度臨床学※ 総合臨床検査特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	山添 和明 (57) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医外科学総論 獣医手術学総論 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 修復・再生医療科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	岡村 泰彦 (44) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医軟部組織外科学 獣医臨床腫瘍学 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	教授	稲葉 俊夫 (66) (高) <平成32年4月>
		獣医臨床繁殖学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	北村 真一 (43) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 魚病学 魚病学実習 獣医公衆衛生学実習 動物衛生学実習 国際生物資源学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
		畑 明寿 (35) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 動物衛生学実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
		村田 拓也 (55) <平成30年4月>
生命科学 生命科学実習 獣医生化学実習 獣医生理学実習 比較動物機能科学※ ライフサイエンス特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ		
専	准教授	松井 利康 (40) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医形態機能学Ⅱ 獣医解剖学実習 獣医組織学実習 修復・再生医療科学※ ライフサイエンス特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	我妻 玲 (47) <平成30年4月>
		生命科学実習 生物統計 獣医生理学実習 食品衛生学実習 ライフサイエンス特別実習 獣医臨床疫学演習※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 健康の科学 生涯スポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	畑 明寿 (36) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 動物衛生学実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
		村田 拓也 (56) <平成30年4月>
		生命科学 生命科学実習 獣医生化学実習 獣医生理学実習 比較動物機能科学※ ライフサイエンス特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
		松井 利康 (41) <平成30年4月>
生命科学実習 獣医形態機能学Ⅱ 獣医解剖学実習 獣医組織学実習 修復・再生医療科学※ ライフサイエンス特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ		
専	准教授	我妻 玲 (47) <平成30年4月>
		生命科学実習 生物統計 獣医生理学実習 食品衛生学実習 ライフサイエンス特別実習 獣医臨床疫学演習※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 健康の科学 生涯スポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	渡辺 俊平 (36) <平成30年4月>
		獣生化学実習 獣医微生物学※ 獣医微生物学実習 獣医公衆衛生学実習 人獣共通感染症学実習 分子疫学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	依田 成玄 (45) <平成30年4月>
		獣医生理学実習 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 分子細胞腫瘍学※ ライフサイエンス特別実習 分子疫学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 専門英語ⅡB
専	准教授	齋藤(春末) 文代 (43) <平成31年4月>
		獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 レギュラトリー科学※ 医薬品・食品安全性評価演習 国際生物資源学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	作道 章一 (40) <平成31年4月>
		獣医微生物学実習 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 国際動物疾病学※ 人獣共通感染症学実習 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	下川(徳永) 孝子 (40) <平成32年4月>
		獣医臨床病理学 小動物内科学実習 獣医画像診断学※ 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 獣医高度臨床学※ 総合臨床検査特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	渡辺 俊平 (37) <平成30年4月>
		獣生化学実習 獣医微生物学※ 獣医微生物学実習 獣医公衆衛生学実習 人獣共通感染症学実習 分子疫学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	
専	准教授	齋藤(春末) 文代 (44) <平成31年4月>
		獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 レギュラトリー科学※ 医薬品・食品安全性評価演習 国際生物資源学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	作道 章一 (41) <平成31年4月>
		獣医微生物学実習 獣医公衆衛生学実習 食品衛生学実習 国際動物疾病学※ 人獣共通感染症学実習 公共獣医事情報解析実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	下川(徳永) 孝子 (41) <平成32年4月>
		獣医臨床病理学 小動物内科学実習 獣医画像診断学※ 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 獣医高度臨床学※ 総合臨床検査特別実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	伊藤 良樹 (39) ＜平成32年4月＞
		獣医眼科学 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 修復・再生医療科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	神田 鉄平 (37) ＜平成32年4月＞
		小動物内科学実習 獣医麻酔科学 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 チーム獣医療学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	講師	竹谷 浩介 (39) ＜平成30年4月＞
		生命科学実習 獣医生化学実習 獣医生理学実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	講師	早川 晃司 (34) ＜平成31年4月＞
		獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医実験動物学実習
専	講師	佐伯 亘平 (30) ＜平成32年4月＞
		獣医臨床薬理学※ 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 分子細胞腫瘍学※ 獣医高度臨床学※
専	講師	松田 彬 (35) ＜平成32年4月＞
		獣医臨床薬理学※ 小動物内科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 トランスレーショナル・ベテリナリーメディシン※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	准教授	伊藤 良樹 (40) ＜平成32年4月＞
		獣医眼科学 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 修復・再生医療科学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	准教授	神田 鉄平 (38) ＜平成32年4月＞
		小動物内科学実習 獣医麻酔科学 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 チーム獣医療学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	講師	竹谷 浩介 (40) ＜平成30年4月＞
		生命科学実習 獣医生化学実習 獣医生理学実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	講師	早川 晃司 (35) ＜平成31年4月＞
		獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医実験動物学実習
専	講師	佐伯 亘平 (31) ＜平成32年4月＞
		獣医臨床薬理学※ 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 分子細胞腫瘍学※ 獣医高度臨床学※
専	講師	松田 彬 (36) ＜平成32年4月＞
		獣医臨床薬理学※ 小動物内科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 トランスレーショナル・ベテリナリーメディシン※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	中嶋 幸生 (36) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医運動器病学 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 分子細胞腫瘍学※ 修復・再生医療科学※ トランスレーショナル・ベテリナリーメディシン※ 獣医高度臨床学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 専門英語ⅡA
専	講師	前田 憲孝 (41) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	講師	Curtis, Timothy Bradford (34) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D
専	助教	五十嵐 瞳 (34) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医解剖学実習 獣医組織学実習 発生工学※
専	助教	千葉 秀一 (39) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医生化学実習 獣医生理学実習 獣医病態モデル学※ 比較動物機能科学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	中嶋 幸生 (37) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医運動器病学 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 分子細胞腫瘍学※ 修復・再生医療科学※ トランスレーショナル・ベテリナリーメディシン※ 獣医高度臨床学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 専門英語ⅡA
専	講師	前田 憲孝 (42) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
専	講師	Curtis, Timothy Bradford (35) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D
専	助教	五十嵐 瞳 (35) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医解剖学実習 獣医組織学実習 発生工学※
専	助教	千葉 秀一 (40) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医生化学実習 獣医生理学実習 獣医病態モデル学※ 比較動物機能科学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	田中 良法 (33) <平成31年4月> 生命科学実習 獣医生化学実習
専	助教	向田 昌司 (33) <平成30年4月> 生命科学実習 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医免疫学実習 専門英語 I A
専	助教	林 慶 (30) <平成30年4月> 生命科学実習 医動物学実習
専	助教	中村 翔 (29) <平成30年4月> 生命科学実習 動物衛生学実習 獣医臨床繁殖学実習
専	助教	太田 奈保美 (33) <平成31年4月> 生命科学実習 魚病学実習 医動物学実習 動物衛生学実習 獣医臨床疫学演習※ 専門英語 II A
専	助教	三井 一鬼 (44) <平成31年4月> 獣医解剖学実習 獣医病理解剖学実習 獣医病理学実習 総合参加型臨床実習 産業動物疾病診断病理学※ 国際獣医法医学※ エキゾチックアニマル学※ 総合臨床検査特別実習 専門英語 I B
専	助教	藤原 信行 (29) <平成31年4月> 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医実験動物学実習
専	助教	藤井 ひかる (31) <平成31年4月> 獣医微生物学※ 獣医微生物学実習 獣医公衆衛生学実習 人獣共通感染症学実習
専	助教	梶川 修平 (30) <平成31年4月> 動物実験学※ 獣医実験動物学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	田中 良法 (34) <平成31年4月> 生命科学実習 獣医生化学実習
専	助教	向田 昌司 (34) <平成30年4月> 生命科学実習 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医免疫学実習 専門英語 I A
専	助教	林 慶 (31) <平成30年4月> 生命科学実習 医動物学実習
専	助教	中村 翔 (30) <平成30年4月> 生命科学実習 動物衛生学実習 獣医臨床繁殖学実習
専	助教	太田 奈保美 (34) <平成31年4月> 生命科学実習 魚病学実習 医動物学実習 動物衛生学実習 獣医臨床疫学演習※ 専門英語 II A
専	助教	三井 一鬼 (45) <平成31年4月> 獣医解剖学実習 獣医病理解剖学実習 獣医病理学実習 総合参加型臨床実習 産業動物疾病診断病理学※ 国際獣医法医学※ エキゾチックアニマル学※ 総合臨床検査特別実習 専門英語 I B
専	助教	藤原 信行 (30) <平成31年4月> 獣医薬理学実習 獣医毒性学実習 獣医実験動物学実習
専	助教	藤井 ひかる (32) <平成31年4月> 獣医微生物学※ 獣医微生物学実習 獣医公衆衛生学実習 人獣共通感染症学実習
専	助教	梶川 修平 (31) <平成31年4月> 動物実験学※ 獣医実験動物学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	助教	村上 康平 (32) ＜平成31年4月＞
		獣医実験動物学実習 獣医免疫学実習 小動物内科学実習 総合参加型臨床実習
専	助教	宮前 二郎 (27) ＜平成31年4月＞
		獣医実験動物学実習 獣医免疫学実習 魚病学実習
専	助教	新井 清隆 (30) ＜平成32年4月＞
		獣医病理学実習 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合参加型臨床実習
専	助教	佐野 芳 (25) ＜平成32年4月＞
		獣医公衆衛生学実習 動物衛生学実習
専	助教	望月 庸平 (36) ＜平成32年4月＞
		獣医呼吸・循環器病学※ 小動物内科学実習 獣医画像診断学※ 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 獣医高度臨床学※ 子一ム獣医療学※
専	助教	杉本 佳介 (32) ＜平成32年4月＞
		獣医呼吸・循環器病学※ 小動物内科学実習 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習
専	助教	糸井 崇将 (34) ＜平成32年4月＞
		獣医神経病学 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 修復・再生医療科学※
専	助教	三河 翔馬 (27) ＜平成32年4月＞
		小動物内科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専	助教	村上 康平 (33) ＜平成31年4月＞
		獣医実験動物学実習 獣医免疫学実習 小動物内科学実習 総合参加型臨床実習
専	助教	宮前 二郎 (28) ＜平成31年4月＞
		獣医実験動物学実習 獣医免疫学実習 魚病学実習
専	助教	新井 清隆 (31) ＜平成32年4月＞
		獣医病理学実習 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合参加型臨床実習
専	助教	佐野 芳 (26) ＜平成32年4月＞
		獣医公衆衛生学実習 動物衛生学実習
専	助教	望月 庸平 (37) ＜平成32年4月＞
		獣医呼吸・循環器病学※ 小動物内科学実習 獣医画像診断学※ 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 獣医高度臨床学※ 子一ム獣医療学※
専	助教	杉本 佳介 (33) ＜平成32年4月＞
		獣医呼吸・循環器病学※ 小動物内科学実習 小動物外科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習
専	助教	糸井 崇将 (35) ＜平成32年4月＞
		獣医神経病学 小動物内科学実習 小動物外科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習 修復・再生医療科学※
専	助教	三河 翔馬 (28) ＜平成32年4月＞
		小動物内科学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	小野 哲嗣 (35) <平成32年4月>
		産業動物臨床実習 獣医臨床繁殖学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習
専	助教	森田 康広 (32) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 産業動物臨床実習 獣医臨床繁殖学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習
専	助教	久楽 賢治 (37) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医画像診断学※ 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習
専	助教	小林 正人 (30) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 総合臨床検査特別実習 専門英語ⅠB
専	助教	大西 章弘 (35) <平成32年4月>
		小動物外科学実習 獣医画像診断学実習
兼任	教授	大和田 一雄 (67) <平成30年4月>
		動物福祉論 国際生物資源学※
兼任	教授	磯部 知弘 (47) <平成31年4月>
		遺伝育種学※ 飼料作物学 産業動物臨床実習 獣医臨床繁殖学実習 産業動物疾病予防管理学
兼任	教授	西村 次郎 (62) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ) スポーツとフィールド科学 (スキー)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	小野 哲嗣 (36) <平成32年4月>
		産業動物臨床実習 獣医臨床繁殖学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 総合参加型臨床実習
専	助教	久楽 賢治 (38) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医画像診断学※ 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習
専	助教	小林 正人 (31) <平成32年4月>
		小動物内科学実習 獣医画像診断学実習 総合獣医学演習Ⅰ※ 獣医療面接実習 総合参加型臨床実習 総合臨床検査特別実習 専門英語ⅠB
専	助教	大西 章弘 (36) <平成32年4月>
		小動物外科学実習 獣医画像診断学実習
兼任	教授	大和田 一雄 (68) <平成30年4月>
		動物福祉論 生命科学実習 獣医組織学実習 国際生物資源学※
兼任	教授	西村 次郎 (63) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ) スポーツとフィールド科学 (スキー)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	寺田 盛紀 (66) <平成30年4月> 企業と人間A 企業と人間B
兼担	教授	中村 修 (60) <平成31年4月> 企業情報特論A 企業情報特論B
兼担	教授	財部 健一 (66) <平成30年4月> 現代人の科学B
兼担	准教授	小野 文子 (57) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 獣医微生物学実習 小動物外科学実習 獣医病態モデル学※ 人獣共通感染症学実習 獣医高度臨床学※ 総合臨床検査特別実習
兼担	准教授	松山 秀一 (39) <平成30年4月> 食品衛生学実習 生産農学概論 動物衛生学実習 獣医臨床繁殖学実習 総合参加型臨床実習
兼担	准教授	小沼 守 (50) <平成32年4月> 栄養学 チーム獣医療学※
兼任	講師	小沼 守 (48) <平成30年4月> 栄養学
兼担	准教授	渡邊 剛央 (47) <平成30年4月> 国際関係論A 国際関係論B 日本国憲法 法学A 法学B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC
兼担	准教授	森 博史 (63) <平成30年4月> スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ) スポーツとフィールド科学 (スキー)

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	寺田 盛紀 (67) <平成30年4月> 企業と人間A 企業と人間B
兼担	教授	中村 修 (61) <平成31年4月> 企業情報特論A 企業情報特論B
兼担	教授	財部 健一 (67) <平成30年4月> 現代人の科学B
兼担	教授	澤見 英男 (68) <平成30年4月> 現代人の科学D
兼担	准教授	小野 文子 (58) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 獣医微生物学実習 小動物外科学実習 獣医病態モデル学※ 人獣共通感染症学実習 獣医高度臨床学※ 総合臨床検査特別実習
兼担	准教授	小沼 守 (51) <平成32年4月> 栄養学 チーム獣医療学※
兼担	准教授	渡邊 剛央 (48) <平成30年4月> 国際関係論A 国際関係論B 日本国憲法 法学A 法学B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC
兼担	准教授	森 博史 (64) <平成30年4月> スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ) スポーツとフィールド科学 (スキー)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	戸田 修司 (44) <平成30年4月>
		政治学A 政治学B 社会と人間A 社会と人間B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B 教養演習A 教養演習B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC 文章表現法応用編A 文章表現法応用編B
兼任	講師	小林 忠資 (36) <平成30年4月>
		プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B キャリア形成講座A キャリア形成講座B 学びの基礎論A 学びの基礎論B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC プレゼンテーション応用編A プレゼンテーション応用編B
兼任	講師	杉本 幹治 (47) <平成32年4月>
		放射線生物学※
兼任	講師	中村 征樹 (43) <平成30年4月>
		科学倫理学
兼任	講師	佐藤 周史 (46) <平成32年4月>
		動物衛生学実習
兼任	講師	仙波 裕之 (62) <平成33年4月>
		馬臨床学
兼任	講師	平山 紀夫 (68) <平成35年4月>
		国際生物資源学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	戸田 修司 (45) <平成30年4月>
		政治学A 政治学B 社会と人間A 社会と人間B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B 教養演習A 教養演習B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC 文章表現法応用編A 文章表現法応用編B
兼任	講師	小林 忠資 (37) <平成30年4月>
		プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B キャリア形成講座A キャリア形成講座B 学びの基礎論A 学びの基礎論B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC プレゼンテーション応用編A プレゼンテーション応用編B
兼任	講師	杉本 幹治 (48) <平成32年4月>
		放射線生物学※
兼任	講師	中村 征樹 (44) <平成30年4月>
		科学倫理学
兼任	講師	佐藤 周史 (47) <平成32年4月>
		動物衛生学実習
兼任	講師	仙波 裕之 (63) <平成33年4月>
		馬臨床学
兼任	講師	平山 紀夫 (69) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 国際生物資源学※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	藤高 伸子 (64) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	北村 真一 (44) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※
兼任	講師	斉藤 真也 (52) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 生物物理学 トランスレーショナル・ リサーチ 国際ライフサイエンス産 業政策論 分子疫学※ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ 専門英語ⅠB
兼任	講師	深瀬 徹 (60) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 獣医生理学実習 食品衛生学実習 獣医疫学 総合獣医学演習Ⅰ※ 国際動物疫病学※ 獣医臨床疫学演習※ 獣医キャリアスキルアッ プ研修 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 卒業論文Ⅲ
兼任	講師	三好 紀彰 (40) <平成30年4月>
		栄養学
兼任	講師	藤高 伸子 (65) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 伸二 (61) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	松本 喜一郎 (65) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	リヴェラ 陽子 (34) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B
兼任	講師	藤倉 晶子 (57) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 日本語理解 日本語表現
兼任	講師	菅 開 (60) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 伸二 (62) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	松本 喜一郎 (66) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	リヴェラ 陽子 (35) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B
兼任	講師	藤倉 晶子 (58) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 日本語理解 日本語表現
兼任	講師	菅 開 (61) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	松原 加純 (32) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B
兼任	講師	Michael Rivera (34) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	門田 シルバルー (51) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	Gary Craig Baird (52) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	鳥生 クリスティーン (44) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	松原 加純 (33) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B
兼任	講師	Michael Rivera (35) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	門田 シルバルー (52) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	Gary Craig Baird (53) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	鳥生 クリスティーン (45) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	渡辺 メリー ジェー ン ガルシア (43) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	Andrew David Strange (35) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	川口 ローラ (46) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	菅 未帆 (49) <平成30年4月>
		中国語 I A 中国語 I B 中国語 II A 中国語 II B
兼任	講師	宮田(宮壽) さつ き (37) <平成30年4月>
		中国語 I A 中国語 I B 中国語 II A 中国語 II B
兼任	講師	張 永慶 (48) <平成30年4月>
		中国語 I A 中国語 I B 中国語 II A 中国語 II B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	渡辺 メリー ジェー ン ガルシア (44) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	Andrew David Strange (36) <平成30年4月>
		発信英語 I A 発信英語 I B 発信英語 II A 発信英語 II B 発信英語 III A 発信英語 III B 発信英語 IV A 発信英語 IV B
兼任	講師	
兼任	講師	菅 未帆 (50) <平成30年4月>
		中国語 I A 中国語 I B 中国語 II A 中国語 II B
兼任	講師	宮田(宮壽) さつ き (38) <平成30年4月>
		中国語 I A 中国語 I B 中国語 II A 中国語 II B
兼任	講師	張 永慶 (49) <平成30年4月>
		中国語 I A 中国語 I B 中国語 II A 中国語 II B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	崔昌玉 (42) <平成30年4月>
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	崔允植 (44) <平成30年4月>
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	矢野葉子 (41) <平成30年4月>
		心理学A 心理学B
兼任	講師	大西好幸 (62) <平成30年4月>
		文学A 文学B
兼任	講師	白石成二 (65) <平成30年4月>
		日本史A 日本史B
兼任	講師	松澤仁志 (60) <平成30年4月>
		外国史A 外国史B
兼任	講師	山中高光 (59) <平成30年4月>
		経済学A 経済学B
兼任	講師	森一治 (62) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	崔昌玉 (43) <平成30年4月>
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	崔允植 (45) <平成30年4月>
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	矢野葉子 (42) <平成30年4月>
		心理学A 心理学B
兼任	講師	大西好幸 (63) <平成30年4月>
		文学A 文学B
兼任	講師	白石成二 (66) <平成30年4月>
		日本史A 日本史B
兼任	講師	松澤仁志 (61) <平成30年4月>
		外国史A 外国史B
兼任	講師	山中高光 (60) <平成30年4月>
		経済学A 経済学B
兼任	講師	高橋正行 (61) <平成30年4月>
		健康の科学 生涯スポーツ
兼任	講師	森一治 (63) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	高野 洋志 (67) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ)
兼任	講師	吉村 直樹 (70) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (スキー)
兼任	講師	黒田 隆之 (61) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (スキー)
兼任	講師	杉本 博 (68) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (スキー)
兼任	講師	明比 孝善 (41) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (テニス)
兼任	講師	澤見 英男 (67) <平成30年4月>
		現代人の科学D

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	高野 洋志 (68) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ)
兼任	講師	吉村 直樹 (71) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (スキー)
兼任	講師	黒田 隆之 (62) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (スキー)
兼任	講師	杉本 博 (69) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (スキー)
兼任	講師	明比 孝善 (42) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (テニス)
兼任	講師	湯川 治敏 (68) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ) スポーツとフィールド科学 (スキー)
兼任	講師	山口 立雄 (69) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学 (スキー)

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度、平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成30年4月就任予定であった菅又昌実教授が一身上の都合により就任辞退した。担当授業科目のうち「動物関連キャリア概論」は専任教員を補充する方針であるが、平成30年度は平山紀夫兼任教員が担当する。「情報リテラシー」は専任教員を補充する方針であり、候補者1名について今年度中にAC教員審査を受審する予定である。「獣医微生物学実習」「獣医公衆衛生学総論」「獣医公衆衛生学実習」「食品衛生学実習」「環境衛生学」「動物衛生学実習」「総合獣医学演習Ⅱ」「セキュリティ学」「グローバル食品管理科学」「国際生物資源学」「人獣共通感染症学実習」「公共獣医事情報解析実習」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」は、専任の教員を補充する方針であるが現在未定である。
- ・平成30年4月就任予定であった樽林陽一教授が一身上の都合により就任辞退した。後任として専任教員を補充する方針であり、現在候補者について第1回AC教員審査受審中であり、審査結果を受けて専任教員として就任する予定である。その間は「動物関連キャリア概論」「生物物理学」「トランスレーショナル・リサーチ」「国際ライフサイエンス産業政策論」「分子疫学」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」において、斉藤真也兼任教員を配置する。
- ・平成32年4月就任予定の門平睦代教授が一身上の都合により辞退した。後任として専任教員を補充する方針であり、現在候補者について第1回AC教員審査受審中であり、審査結果を受けて専任教員として就任する予定である。その間は「獣疫学」「総合獣医学演習Ⅰ」「国際動物疫病学」「獣医臨床疫学演習」「獣医キャリアスキルアップ研修」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」において、深瀬徹兼任教員を配置する。また「専門英語ⅡA」も専任の教員を補充する計画であり、今年度中にAC教員審査を受審する予定である。
- ・平成31年4月より兼任講師、平成33年4月より専任として就任予定の前多敬一郎教授が死去した。担当予定であった「遺伝育種学」「動物衛生学実習」「獣医臨床繁殖学」「獣医臨床繁殖学実習」「総合獣医学演習Ⅰ」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」は専任教員を補充する方針であるが、現在未定である。
- ・平成30年4月就任予定であった片山圭一准教授が一身上の都合により就任辞退した。担当授業科目のうち「動物関連キャリア概論」は専任教員を補充する方針であり候補者1名を平成30年第1回AC教員審査受審中である。審査結果を受けて専任教員として就任する予定であるが、平成30年度のみ深瀬徹兼任教員が担当する。「生命科学実習」は専任教員を補充する方針であり候補者1名を平成30年第1回AC教員審査受審中である。審査結果を受けて専任教員として就任する予定であるが、平成30年度のみ小野文子兼担任教授が担当する。「獣医組織学実習」は専任教員を補充する方針であり、候補者1名を平成30年第1回AC教員審査受審中である。審査結果を受けて専任教員として就任する予定であるが、平成30年度のみ大和田一雄兼担任教授が担当する。「獣医病理解剖学実習」「獣医病理学実習」「総合参加型臨床実習」「ライフサイエンス特別実習」は、後任の専任教員候補者について、第1回AC教員審査を受審中であり、審査結果を受けて専任教員として就任する予定である。「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」も後任の専任教員候補者について第1回AC教員審査を受審中であり、審査結果を受けて専任教員として就任する予定である。「専門英語ⅠB」も専任教員を補充する方針であり候補者1名を平成30年第1回AC教員審査受審中である。審査結果を受けて専任教員として就任する予定であるが、平成30年度は斉藤真也兼任教員を配置する。
- ・平成30年4月就任予定であった北村真一准教授が一身上の都合により就任辞退した。担当授業科目のうち「動物関連キャリア概論」は後任の専任教員を補充する方針であるが、1年次①期より開講するため今年度は兼任教員として北村真一が担当する。「魚病学」「魚病学実習」「獣医公衆衛生学実習」「動物衛生学実習」「国際生物資源学」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」は後任の専任教員を補充する方針であるが、現在未定である。
- ・平成30年4月就任予定であった我妻玲准教授が一身上の都合により就任辞退した。担当授業科目のうち「生命科学実習」「獣医生理学実習」「食品衛生学実習」は、後任の専任教員を補充する方針であり、候補者について第1回AC教員審査受審中である。その間は「生命科学実習」は大和田一雄兼担任教授、「獣医生理学実習」「食品衛生学実習」は深瀬徹兼任教員を配置した。「生物統計」「ライフサイエンス特別実習」「獣医臨床疫学演習」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」は後任の専任教員について今年度中にAC教員審査を受審する予定である。また、「健康の科学」「生涯スポーツ」は高橋正行兼任教員を配置する。
- ・平成30年4月就任予定であった依田成玄准教授が一身上の都合により就任辞退した。担当授業科目のうち「分子疫学」は後任の専任教員について今年度中にAC教員審査を受審する予定である。「獣医生理学実習」「獣医公衆衛生学実習」「食品衛生学実習」「分子細胞腫瘍学」「ライフサイエンス特別実習」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」「専門英語ⅡB」の後任は専任教員を補充する方針であるが、現在未定である。
- ・平成32年4月就任予定の森田康広助教が一身上の都合により就任辞退した。担当科目である「小動物内科学実習」「産業動物臨床実習」「獣医臨床繁殖学実習」「総合獣医学演習Ⅰ」「総合参加型臨床実習」は専任補充する方針である。専任教員候補者について第1回AC教員審査受審中であり、審査結果を受けて専任教員に就任する予定である。
- ・大和田一雄兼担任教授は、辞退した我妻玲准教授の「生命科学実習」、片山圭一准教授の「獣医組織学実習」を平成30年度のみ担当する。
- ・平成31年4月就任予定の磯部知弘兼担任教授が一身上の都合により就任辞退した。担当予定科目である「遺伝育種学」「飼料作物学」「産業動物臨床実習」「獣医臨床繁殖学実習」「産業動物疾病予防管理学」は、獣医保健看護学科の専任教員補充により兼担任教員を配置する予定であるが現在未定である。
- ・澤見英男兼任教員は、平成30年4月1日付けで岡山理科大学特任教授に採用されたため、兼担任教員に変更する。
- ・小野文子兼担任教授は、辞退した片山圭一准教授の「生命科学実習」を平成30年度のみ担当する。
- ・平成30年4月就任予定の松山秀一兼担任教授が一身上の都合により就任辞退した。担当予定科目である「生産農学概論」は獣医保健看護学科の専任教員補充により兼担任教員を配置する予定であるが現在未定である。1年③期に開講するため、開講までに兼任教員を配置する予定である。「食品衛生学実習」「動物衛生学実習」「獣医臨床繁殖学実習」「総合参加型臨床実習」は、獣医保健看護学科専任教員の採用による兼任を予定しているが、現在未定である。
- ・平成30年4月就任予定の小沼守兼任教員が一身上の都合により担当する「栄養学」の担当が不可能となった。これにより、平成30年度は三好紀彰兼任教員が担当する。
- ・平成30年4月より平山紀夫兼任教員が就任し、就任辞退した菅又昌実教授の担当予定科目である「動物関連キャリア概論」を担当する。
- ・就任辞退した北村真一准教授が、平成30年4月のみ兼任教員として「動物関連キャリア概論」を担当する。
- ・平成30年4月より斉藤真也兼任教員が就任し、就任辞退した樽林陽一教授の担当予定科目である「動物関連キャリア概論」「生物物理学」「トランスレーショナル・リサーチ」「国際ライフサイエンス産業政策論」「分子疫学」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」を担当する。また、就任辞退した片山圭一准教授の担当予定科目である「専門英語ⅠB」を担当する。
- ・平成30年4月より深瀬徹兼任教員が就任し、就任辞退した片山圭一准教授の担当予定科目であった「動物関連キャリア概論」を担当する。就任辞退した門平睦代教授の担当予定科目であった「獣疫学」「総合獣医学演習Ⅰ」「国際動物疫病学」「獣医臨床疫学演習」「獣医キャリアスキルアップ研修」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」「卒業論文Ⅲ」を担当する。また、就任辞退した我妻玲准教授の担当科目であった「獣医生理学実習」「食品衛生学実習」を担当する。
- ・平成30年4月より三好紀彰兼任教員が就任し、小沼守兼任教員の代わりに「栄養学」を担当する。
- ・平成30年4月より兼任教員として就任予定の川口ローラは、担当予定の「発信英語ⅠA」「発信英語ⅠB」「発信英語ⅡA」「発信英語ⅡB」「発信英語ⅢA」「発信英語ⅢB」「発信英語ⅣA」「発信英語ⅣB」のクラス編成を調整した結果、担当を辞退することとなった。
- ・平成30年4月より高橋正行兼任教員が就任し、就任辞退した我妻玲准教授の「健康の科学」「生涯スポーツ」を担当する。
- ・平成30年4月より就任する澤見英男兼任教員は、岡山理科大学特任教授として採用されたため、兼担任教員として「現代人の科学D」を担当する。
- ・クラス編成を調整した結果、平成30年4月より湯川治敏兼任教員が就任し「スポーツとフィールド科学（エコツーリズムのための野外スポーツ）」、「スポーツとフィールド科学（スキー）」を担当する。
- ・クラス編成を調整した結果、平成30年4月より山口立雄兼任教員が就任し、「スポーツとフィールド科学（スキー）」を担当する。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
20 名	10 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
29	15	7	24	75	15	6	2	5	28	25	11	7	23	66
(17)	(10)	(2)	(5)	(34)						[Δ4]	[Δ4]	[0]	[Δ1]	[Δ9]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、
 完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	12 名	13 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{66}{75} = \boxed{88} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{12}{28} = \boxed{42.85} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	菅又 昌実	必修	動物関連キャリア概論※	②	一身上の都合のため就任辞退（30）
			必修	情報リテラシー	③	
			必修	獣医微生物学実習	③	
			必修	獣医公衆衛生学総論	③	
			必修	獣医公衆衛生学実習	③	
			必修	食品衛生学実習	③	
			必修	環境衛生学	③	
			必修	動物衛生学実習	③	
			必修	総合獣医学演習Ⅱ※	③	
			選択	セキュリティ学	③	
			選択	グローバル食品管理科学	③	
			選択	国際生物資源学※	③	
			選択	人獣共通感染症学実習	③	
			選択	公共獣医事情報解析実習	③	
			必修	卒業論文Ⅰ	③	
必修	卒業論文Ⅱ	③				
必修	卒業論文Ⅲ	③				
2	教授	樽林 陽一	必修	動物関連キャリア概論※	②	一身上の都合のため就任辞退（30）
			必修	生物物理学	②	
			選択	トランスレーショナル・リサーチ	②	
			選択	国際ライフサイエンス産業政策論	②	
			選択	分子疫学※	②	
			必修	卒業論文Ⅰ	②	
			必修	卒業論文Ⅱ	②	
必修	卒業論文Ⅲ	②				
3	教授	門平 睦代	必修	獣医疫学	②	一身上の都合のため就任辞退（30）
			必修	総合獣医学演習Ⅰ※	②	
			選択	国際動物疫病学※	②	
			選択	獣医臨床疫学演習※	②	
			必修	獣医キャリアスキルアップ研修	②	
			必修	卒業論文Ⅰ	②	
			必修	卒業論文Ⅱ	②	
			必修	卒業論文Ⅲ	②	
選択	専門英語ⅡA	③				
4	教授	前多 敬一郎	必修	遺伝育種学※	③	死去のため(30)
			必修	動物衛生学実習	③	
			必修	獣医臨床繁殖学	③	
			必修	獣医臨床繁殖学実習	③	
			必修	総合獣医学演習Ⅰ※	③	
			必修	卒業論文Ⅰ	③	
			必修	卒業論文Ⅱ	③	
必修	卒業論文Ⅲ	③				
5	准教授	片山 圭一	必修	動物関連キャリア概論※	②	一身上の都合のため就任辞退（30）
			必修	生命科学実習	②	
			必修	獣医組織学実習	②	
			必修	獣医病理解剖学実習	③	
			必修	獣医病理学実習	③	
			必修	総合参加型臨床実習	③	
			選択	ライフサイエンス特別実習	③	
			必修	卒業論文Ⅰ	③	
			必修	卒業論文Ⅱ	③	
			必修	卒業論文Ⅲ	③	
選択	専門英語ⅠB	②				
6	准教授	北村 真一	必修	動物関連キャリア概論※	②	一身上の都合のため就任辞退（30）
			必修	魚病学	③	
			必修	魚病学実習	③	
			必修	獣医公衆衛生学実習	③	
			必修	動物衛生学実習	③	
			選択	国際生物資源学※	③	
			必修	卒業論文Ⅰ	③	
			必修	卒業論文Ⅱ	③	
必修	卒業論文Ⅲ	③				

7	准教授	我妻 玲	必修	生命科学実習	②	一身上の都合のため就任辞退 (30)			
			選択	生物統計	③				
			必修	獣医生理学実習	②				
			必修	食品衛生学実習	②				
			選択	ライフサイエンス特別実習	③				
			選択	獣医臨床疫学演習※	③				
			必修	卒業論文 I	③				
			必修	卒業論文 II	③				
			必修	卒業論文 III	③				
			選択	健康の科学	②				
			選択	生涯スポーツ	②				
8	准教授	依田 成玄	必修	獣医生理学実習	③	一身上の都合のため就任辞退 (30)			
			必修	獣医公衆衛生学実習	③				
			必修	食品衛生学実習	③				
			選択	分子細胞腫瘍学※	③				
			選択	ライフサイエンス特別実習	③				
			選択	分子疫学※	③				
			必修	卒業論文 I	③				
			必修	卒業論文 II	③				
			必修	卒業論文 III	③				
			選択	専門英語 II B	③				
9	助教	森田 康広	必修	小動物内科学実習	③	一身上の都合のため就任辞退 (30)			
			必修	産業動物臨床実習	③				
			必修	獣医臨床繁殖学実習	③				
			必修	総合獣医学演習 I ※	③				
			必修	総合参加型臨床実習	③				
(D) 後任補充状況の集計 (E)									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
9	人	必修	66 科目	必修	0 科目	必修	19 科目	必修	47 科目
		選択	22 科目	選択	0 科目	選択	8 科目	選択	14 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	88 科目	計	0 科目	計	27 科目	計	61 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退 (未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退 (未就任) の理由」に就任辞退の理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
(F) 後任補充状況の集計 (G)									
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

D) + (F)		後任補充状況の集計 (E) + (G)											
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
9	人	必修	66	科目	必修	0	科目	必修	19	科目	必修	47	科目
		選択	22	科目	選択	0	科目	選択	8	科目	選択	14	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	88	科目	計	0	科目	計	27	科目	計	61	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{9}{75} = \boxed{12} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
		該当なし											
合計 後任補充状況の集計													
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退、死亡した専任教員9名の後任として、獣医学科の授業科目を担当するに十分な教育研究業績を有する専任教員候補者を確保する方針である。

現在、辞退及び死亡した専任教員9名のうち後任として5名の候補者を選定した。3名の教授候補者及び1名の講師候補者は平成30年3月AC教員審査を受審している。1名の准教授候補者は今年度中にAC教員審査を受審する予定である。これらの教員は、AC教員審査において「可」判定を得た後、専任教員として就任する予定である。

残りの4名については、後任未定であり、引き続き候補者確保に努め、授業開始前までに選考、AC教員審査を受審する方針である。

辞退した教員が担当する授業科目のうち1年次①期開講の「動物関連キャリア概論」「生命科学実習」について、専任教員を補充する方針であるが、平成30年度に限り、平成30年第1回AC教員審査を受審中の教員2名を兼任教員として、さらに残り2名の兼任教員を採用することにより対応する。1年次③期に開講する「生物物理学」、1年次④期に開講する「獣医生理学実習」もそれぞれ、第1回AC教員審査受審中の教員を兼任教員として配置した。1年次③期に開講する「獣医組織学実習」も専任教員を補充する方針であり、後任について第1回AC教員審査を受審中であり、今年度に限り兼任教員を配置した。いずれもAC教員審査の結果、「可」となれば専任教員として担当させる予定である。

完成年次に向けて専任教員の配置を当初の計画どおり維持する方針であり後任確保に努める。学生には学期始めのオリエンテーション、学生専用のインターネットによる情報窓口であるポータルサイトで周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	留 意 事 項	履 行 状 況	未 履 行	未 履 行 事 項 に つ い て の 実 施 計 画
設 置 時 (29年11月)	1. 獣医学科では最も大規模の入学定員となるため、学生の教育研究活動に支障をきたさないように、定員の厳格な管理に努めるとともに、実習における学生の実技経験の質的・量的充実を図ること。 (獣医学科)	留意事項	【獣医学科】 獣医学科は他の獣医系大学の状況を参考に歩留まりを予想し入学定員の適正化に努めたが、辞退者数が想定していた数を下回ったことにより入学定員超過率が1.05倍となっている。2019年度入試においては、2018年度入試実績を踏まえ1.00倍となるよう定員超過の是正に努める。 獣医学科の入学定員140名に対して147名の入学者を受け入れたが、1年次から始まる「動物関連キャリア概論」「生命科学実習」においては、獣医保健看護学科との合同実習であり、学部入学定員200人に対し、入学者は186人であった。これらの実習は、設置計画通り3班に分けて実施しており、学生の実技経験の質的・量的充実を図っている。(30)	未履行	【獣医学科】 2019年度入試は、情報収集に努め、競合関係にある各大学の模試結果と志願者数の相関関係、一般入試の歩留まり率などを基により定員超過の是正を行う。 2年次以降の実習科目においても、設置認可時の計画を確実に履行するとともに、学生の実習における質的・量的充実を図る。
設 置 時 (29年11月)	2. 「総合参加型臨床実習」については、外来患者数を確実に確保するとともに、病院で一度に実習する学生数を分散するなど時間割の組み方や1班当たりの学生数の工夫などにより、参加型としての実習効果を高められるように努めること。 (獣医学科)	留意事項	【獣医学科】 獣医学教育病院の開設届を2018年4月に愛媛県に提出し、受理された。これを受けて、紹介患者を増やすことを目的として、紹介元である中四国の一次動物病院とのネットワーク構築を進めている。愛媛県を中心に獣医師を対象とする教育病院の説明・見学会を順次開催しており、5月6日時点で70名以上の獣医師の参加を得ている。また、地域の獣医療に関する研究会に教員が積極的に参加して、地域の獣医師の二次診療に対する理解を深める努力を重ねている。学外実習運営連絡協議会を設置して、産業動物臨床を充実させる目的で、地域の農業共済組合等と往診および患者受け入れのための協議を進めている。 5年次に実施される「総合参加型臨床実習」については、参加型としての実習効果を高められるように、初年次より実習担当者間で協議を開始した。学外の参加型臨床実習に関しては、学外実習運営連絡協議会を組織し、活動を始めている。 (30)	未履行	【獣医学科】 次年度以降も継続して、外来患者数を確実に確保するとともに、「総合参加型臨床実習」を開始する 2022(平成34)年度までに参加型としての実習効果向上に努める。

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (29年11月)</p>	<p>3. 「人獣共通感染症学実習」等の病原体を取り扱う実習については、実習内容に見合ったバイオセーフティーレベルの実験室を使用するため、法令やガイドラインに基づき、学内規程等を整備し、安全に配慮した適切な運用に努めること。(獣医学科)</p>	<p>留意事項 【獣医学科】 「岡山理科大学病原体等安全管理規程」を制定した。同規程において病原体安全管理委員会の設置を明示し、病原体の取扱いに関する責任・管理体制を明確化した。(30) 添付：【資料1】「岡山理科大学病原体等安全管理規程」「岡山理科大学病原体等安全管理委員会規程」</p>	<p>未履行 【獣医学科】 ①病原体の受け入れ、分与、輸送、管理等病原体を扱う上で必要な申請様式集や学内細則の作成を進める。 ②SFTSV(三種病原体)および低病原性鳥インフルエンザウイルス(届出伝染病等病原体)を所持する病原体とし、中国四国厚生局への三種病原体所持に関わる届出申請、ならびに農林水産省への家畜伝染病の届出申請を行う方針を決定する。 ③病原体を扱う基礎実習(微生物学実習等)で利用するBSL2の病原体、または研究で使用するBSL2の病原体(特定病原体、家畜伝染病病原体に該当しないもの)の分与を受けて、実際にBSL2施設を稼働させる。 ④人獣共通感染症実習(アドバンスト科目)は、人獣共通感染症を扱うために必要なバイオセーフティ技術を学ぶ実習であり、実際にBSL3病原体をBSL3施設内で扱う実習ではない。技術習得のためのモデル実習としてシミュレーション等の準備を始める。</p>
<p>設 置 時 (29年11月)</p>	<p>4. 「獣医画像診断学実習」については、対象動物をどのように実習で活用するかをシラバスに反映すること。(獣医学科)</p>	<p>留意事項 【獣医学科】 2020(平成32)年度(3年次開講)に開始する「獣医画像診断学実習」のシラバスの改善について、担当教員による協議を開始した。(30)</p>	<p>未履行 【獣医学科】 「獣医画像診断学実習」の対象動物を生体(撮像用)と画像に分け、イヌ、ネコ、ウシ、ブタを基本とし、それらの入手と維持管理の方策を検討したうえでシラバスに反映させる予定である。さらに、獣医学教育病院を活用し、患者画像を集積し、実習に使用する画像を充実させる予定である。</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画	
設 置 時 (29年11月)	5. 実験動物の管理について、換気や区画の用意など安全性の確保は図られているが、管理方法の説明と図面との関係で整合を図り、正確な内容を示すこと。(獣医学科)	留意事項 【獣医学科】 本学部実験動物センターのマウス、ラットの飼育エリアにおいては、設置認可申請書に記載の通り、アニマルスイート方式（独立した空調ゾーンの下に数室の飼育室と1～2室の実験室が配置されている方式）を採用し、研究者はそれぞれのゾーンにおいて、飼育並びに実験処置等を完結する（獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠『実験動物学』P106-107で紹介されている）。具体的には、クリーンエリア（コンベンショナルエリア）（添付資料 図面上のマウス飼育室1～4及びラット飼育室1～3、並びに実験室1を含むゾーン）においては、実験室1において実験処置並びに実験観察等の処置を行い、各動物の飼育はマウス飼育室1～4及びラット飼育室1～3にて行う。SPFエリア（添付資料 図面上のSPFマウス1～5、SPFラット1～2並びに実験室2を含むゾーン）においては、実験室2において実験処置並びに実験観察等の処置を行い、各動物の飼育はSPFマウス1及びSPFラット1～2にて行う。これらのゾーンはそれぞれ独立した空調システムより制御されており、飼育設備も1ケージごとに独立していることから、それぞれのゾーンの中で実験室と飼育室の安全な往来を可能にしている。なお、実験動物の管理に関しては、責任と体制、手続き等を明確化するため、「岡山理科大学獣医学部実験動物センター規程」、「岡山理科大学獣医学部実験動物センター運営委員会規程」を制定した。 (30) 添付： 【資料2】 実験動物センター平面図 【資料3】 岡山理科大学獣医学部実験動物センター規程」「岡山理科大学実験動物センター運営委員会規程」	履行済	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (29年11月)</p>	<p>6. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p> <p>【獣医学科】 設置認可時において、獣医学科が完成年度を迎える平成35(2023)年度には、70代12名、60代13名、50代10名、40代26名、30代14名の年齢構成となる。完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は75名中19名(25%)である。平成30年4月の開設時において、教授3名、准教授4名、助教1名が就任辞退、教授1名が死去したことにより、完成年度の年齢構成は70代10名、60代11名、50代8名、40代24名、30代13名となり、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は66名中13名(19%)である。辞退者の後任候補者については、年齢構成も考慮した上で確保する方針である。(30)</p> <p>【獣医保健看護学科】 設置認可時において、獣医保健看護学科が完成年度を迎える平成33(2021)年度には、70代3名、60代1名、50代3名、40代5名の年齢構成となる。完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は12名中3名(25%)である。平成30年4月の開設時において、教授1名、准教授1名、助教1名が就任辞退しており、完成年度の年齢構成は70代3名、60代1名、50代2名、40代3名となり、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は9名中3名(33%)である。辞退者の後任候補者については、年齢構成も考慮した上で早急に確保する方針である。(30)</p>	<p>未履行</p> <p>【獣医学科・獣医保健看護学科】 就任辞退者の確保と並行して、完成年度前に定年を迎える教員の後任人事は、教育研究の質保証を原則とし、完成年度の前年度から採用手続きを開始する。退職者の教育研究分野の継続性を重視し、教員採用計画に基づき、公募を原則とした公平性、透明性を担保した手続きを行う。年齢構成比を考慮し、30代から50代の教員確保に努め、着実に履行する。(30)</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未 履 行 事 項 について の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (30年2月)	教育学部初等教育学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。	<p>(岡山理科大学) 【教育学部初等教育学科】平成28年度に組織した「教育学部将来構想委員会」において、完成年度以降の組織編成に関する検討を開始した。(30)</p>	<p>(岡山理科大学) 【教育学部初等教育学科】平成31年度の早期に公募を開始し、適切な組織編成を行うことにより、完成年度以降の教育・研究の質を保証する予定である。(30)</p>
	同一設置者が設置する既設学部等（倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科、千葉科学大学薬学部生命薬科学科、危機管理学部環境危機管理学科、航空技術危機管理学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	<p>(倉敷芸術科学大学) 【芸術学部・デザイン芸術学科】全国的に芸術分野を志望する受験生の減少や、受験生は関西・関東方面の芸術大学を検討しており、地元（岡山県内）、近隣県ともに志願者および入学者が伸び悩んでいる。平成28年度に下がった入学者数からは微増傾向にあるため、継続的な学科内の改革に取り組んでいく。(30)</p>	<p>(倉敷芸術科学大学) 【芸術学部・デザイン芸術学科】定員を充足するための対策として、在学生への教育面・就職面の強化を図る。教員が外部発表の場を近隣県等で実施することで倉敷芸術科学大学芸術学部を発信する。また、地域連携による地域に信頼感を生む共同プロジェクトの推進を図る。高校生コンクール、オープンキャンパス等で、本学入学者への動機に繋がるプログラムやインセンティブを実施することで、定員の充足を図り改善を目指す。(30)</p>
		<p>(千葉科学大学) 【薬学部・生命薬科学科】6年制の薬学科と異なり、4年制の生命薬科学科では薬剤師受験資格が得られず、就職に直結しないため、全国的に4年制の薬科学科系の定員充足状況は厳しい状況にある。本学でも学修内容や就職先、教育内容を周知するために広報活動に積極的に取り取り組むとともに、平成30年度には入学定員を5名減じたが、志願者、入学者ともに伸び悩み、本年度入試においても厳しい状況が続いている。(30)</p> <p>【危機管理学部・環境危機管理学科】定員を充足するための対策として、平成29（2017）年度から教育・研究内容の充実を目指し、新たなコース設定を行い、学科、各研究室で行っている教育・研究内容が受験生に伝わるよう研究テーマ別のリーフレットの作成、これまでの卒業生の具体的な就職先、職種を提示すること等により広報活動を展開したが、就職に直結する資格等がないことから卒業後の就職先のイメージがし難く、志願者、入学者ともに伸び悩み、本年度入試においても厳しい状況が続いている。(30)</p>	<p>(千葉科学大学) 【薬学部・生命薬科学科】平成31年度には薬学部の教育内容を見直し、生命薬科学科については、募集を停止する予定である。(30)</p> <p>【危機管理学部・環境危機管理学科】平成31年度には一部の教育内容を関連の深い同学部の学科に移行し、環境危機管理学科については、募集を停止する予定である。(30)</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>同一設置者が設置する既設学部等（倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科、千葉科学大学薬学部生命薬科学科、危機管理学部環境危機管理学科、航空技術危機管理学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】平成29年度から、学科名称を航空関連の学科であることが明確に伝わるよう、「航空技術危機管理学科」へと名称変更を行った。また、平成29年11月に航空機の操縦士を養成する私立大などによる民間機関が、一般社団法人「航空機操縦士育英会」を設立し、本学も平成30年3月には正式に加盟した。これらにより、本学においてもパイロットの養成を行なっていることが周知され、若干ではあるがエアラインパイロットを目指す志願者・入学者ともに増加傾向にある。（30）</p>	<p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】今後も教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学的な広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。（30）</p>

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<獣医学部 獣医学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①入学者選抜の方法</p> <p>選抜方法は、A0入試、推薦入試、一般入試、センター試験利用入試等を設ける。(略)</p> <p>なお、2018年度入試ではセンター試験利用入試を実施しない。これに伴い、センター試験利用入試の募集人員は、一般入試(SA, SAB, SB, B1(獣医学科を除く)、後期の各方式)に募集人員を振り替える。</p> <p>※2: 2018年度については、センター試験を利用しないため、センター試験利用入試の募集人員は、以下のとおり、一般入試(SA, SAB, SB, 後期)に振り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験利用入試CⅠ 8名 → 一般入試前期SA方式 4名、一般入試前期SAB方式 4名 ・センター試験利用入試CⅠ【四国枠】4名 → 一般入試前期SA方式 4名 ・センター試験利用入試CⅡ 4名 → 一般入試前期SB方式 4名 ・センター試験利用入試CⅢ 2名 → 一般入試後期 2名 <p>これらセンター試験利用入試の募集人員振替により、一般入試の募集人員は以下のとおりとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試前期SA方式 34名 ・一般入試前期SAB方式 16名 ・一般入試前期SB方式 12名 ・一般入試後期 6名 <p>また、一般入試後期は学力検査(2科目)+センター利用(1科目)から、学力検査(3科目)へ変更して実施する。なお、CⅠに設けていた【四国枠】は一般入試SA方式で実施する。</p>	<p>①入学者選抜の方法</p> <p>設置時の計画においては、2018年度入試においてセンター試験利用入試を実施しないとしていたが、センター試験利用手続きが完了し、実施することとしたため、下記のとおり、各入試方式の募集人員を変更した。</p> <p>※2: センター試験を利用することに伴い、以下のとおり、一般入試(SA, SAB, SB, 後期)に振り替えていた募集人員をセンター利用入試に振り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試前期SA方式 4名、一般入試前期SAB方式 4名 → センター試験利用入試CⅠ 8名 ・一般入試前期SA方式 4名 → センター試験利用入試CⅠ【四国枠】 4名 ・一般入試前期SB方式 4名 → センター試験利用入試CⅡ 4名 ・一般入試後期 2名 → センター試験利用入試CⅢ 2名 <p>これらセンター試験利用入試への募集人員振替により、一般入試・センター試験利用入試の募集人員は以下のとおりとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試前期SA方式 26名 ・一般入試前期SAB方式 12名 ・一般入試前期SB方式 8名 ・一般入試後期 4名 ・センター試験利用入試CⅠ 8名 ・センター試験利用入試CⅠ【四国枠】 4名 ・センター試験利用入試CⅡ 4名 ・センター試験利用入試CⅢ 2名
<p>②施設・設備</p> <p>1)平成30年度建設予定の大動物実習施設</p> <p>a 手術室(40.91㎡)</p> <p>b 臨床講義室(101.02㎡)</p> <p>c 麻酔室(20.76㎡)</p> <p>d 滅菌室(5.65㎡)</p> <p>e 薬品庫(4.35㎡)</p> <p>f 大動物臨床実習室(変更なし)</p> <p>上記の施設を使用する実習は、主として『産業動物臨床実習』と『獣医繁殖学実習』である。学生の割り振りについては下記の通りである。</p> <p>1.『産業動物臨床実習』</p> <p>140人を2グループに分け、さらにそのグループを3班(23~24人)に分けて、『臨床講義室』並びに『大動物臨床実習室』で『手術室』の様子を主としてモニター視で学修させる。</p> <p>2.『獣医繁殖学実習』</p> <p>140人を2グループに分け、さらにそのグループを2班(35人)に分ける。臨床獣医学実習では、1グループは『大動物臨床実習室』で実習を行い、他のグループは『臨床講義室』においてモニター視で学修させる。途中で両グループは入れ替える。</p> <p>2)平成30年度増築予定の放射線治療室</p> <p>a 前室(14.81㎡)</p>	<p>②施設・設備</p> <p>1)平成30年度建設予定の大動物実習施設</p> <p>a 手術室(73.78㎡)</p> <p>b 臨床講義室(65.29㎡)【定員40人】</p> <p>c 麻酔室(20.06㎡)</p> <p>d 滅菌室(6.99㎡)</p> <p>e 薬品庫(6.59㎡)</p> <p>f 大動物臨床実習室(変更なし)</p> <p>手術に携わる教員以外にも学生たちが『手術室』に入って体験することで教育効果がよりあがるため『手術室』の面積を広くする。</p> <p>それに伴い、『臨床講義室』の面積が多少狭くなるが、65.29㎡【定員40人】の面積であれば、当初計画の実習体制には影響がない。</p> <p>これらの間取りの変更に伴い、資料4のとおり、平面図を変更する。</p> <p>【資料4】大動物実習施設棟図面(新旧)</p> <p>2)平成30年度増築予定の放射線治療室</p> <p>a 前室(18.78㎡)</p> <p>リニアックによる治療については臨床分野の学生に、ライフライン接続等前準備を学習させる必要があるため、資料5のとおり前室を変更する。</p> <p>【資料5】獣医学教育病院棟1F図面(新旧)</p>

<p>③進級要件 獣医学科の進級要件は次のとおりである。4年次から5年次に進級するとき、専門教育科目の「総合獣医学演習I」を含む必修科目100単位以上を修得していること。また、外国語教育科目より必修科目6単位、選択必修科目を2単位以上修得していること。</p>	<p>③進級要件 獣医学科の進級要件について、獣医学科では、5年次において「総合参加型臨床実習」を受講できるよう、専門教育科目の「総合獣医学演習I」を含む100単位を修得していることを4年次から5年次に進級する際の進級要件に設定していた。しかし、5、6年次のアドバンスト科目を円滑に履修できることも重要であり、そのためには専門教育科目における1年次から4年次までの全ての必修の実習科目を修得しておくことが望ましい。そこで、4年次から5年次に進級する際の要件の見直しを行い、「講義」「演習」科目を83単位以上、「実習」科目を26単位以上修得していることと変更した。また、2年次以降に開講する獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく必修の専門教育科目を円滑に履修させるためには、1年次より計画的な履修を促す必要がある。そこで、1年次から2年次においては30単位以上修得することを、2年次から3年次においては、「講義」「演習」科目を30単位以上、実習科目を12単位以上、外国語教育科目を4単位以上含み、合計で60単位以上修得することを進級要件として新たに設定した。これらの変更を岡山理科大学獣医学部履修規程第9条第2項（【資料8】）に規定し平成30年4月1日より施行した。なお、学生には履修規程に基づき入学後のオリエンテーションにおいて周知済みである。</p>
--	---

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では教員の教育能力を高める組織的・実践的取り組みとして平成12年度にFD委員会を設け、授業の改善を目的に教育システムの点検、授業内容（範囲及び水準）・方法の妥当性の検証等に全学的に取り組んできた。平成22年度には教育開発支援機構（平成28年度より教育支援機構、平成30年度より教育推進機構）を設置して、FD推進室を中心に従来の取り組みの拡充を図り、学生による授業評価アンケート、教員間の授業参観、これらの有効性・妥当性の検証と啓発・周知を図るための講演会等の研修、各種報告書の作成と公開を行ってきた。</p> <p>平成28年度に全学的な教育研究組織の改変に伴い、FD推進室は、教育支援機構（現在：教育推進機構）教育開発センターとして、発展的に改組するとともに、本学が直面する教育課題に対応し教育改革計画を立案し、集中的に審議するための学長直下の組織として教育改革会議を設置した。さらに、平成30年度より各学科から改革案を全学に提案する役割を果たす教員を教育ディベロッパーとして任命する制度を設け、全学と学科の教育改革が有効に機能する体制を整えた。FDに関しては、教育推進機構の教育開発センターが教員の資質の維持向上の研修等の企画を立案する。教育開発センターにおけるFDの実施計画等は、全学的な教学事項を審議する第1学部運営委員会で検討を行う。（添付資料岡山理科大学第1学部運営委員会規程）</p> <p>上記の全学的な取り組みに加え、獣医学部では、学部新設とともに教育能力開発センターを設置した。これはひとつには岡山キャンパスと離れており、全学的な取り組みを補完する組織が必要であるのに加え、今治キャンパス独自の取り組みを推進していくためである。そして、センターの業務実施を審議するため、教育能力開発センター運営委員会を設置した。</p> <p>また、教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員を対象として必要は知識や技能を修得させ、能力及び資質を向上させるための研修としてSDを計画的に行っている。SDについてはSD推進委員会を設置し定期的にSDの実施方針、実施計画等を審議している。</p> <p>（添付：【資料6】第1学部運営委員会規程、【資料7】岡山理科大学獣医学部教育能力開発センター規程、岡山理科大学獣医学部教育能力開発センター運営委員会規程）</p>	<p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>第1学部運営委員会は副学長を委員長とし、全学部長、学科長、センター長、教学業務の支援スタッフ等を委員とし、毎月1回開催し、教育改善について継続的に審議する。参加状況は委員全員が出席を原則とし、欠席の場合は代理出席を求める。</p> <p>今治キャンパスにおいては、教育能力開発センター運営委員会を設置して、月1回開催する予定である。メンバーは教育能力開発センター長、教育能力開発センター員、教学・学生支援部長、その他教育能力開発センター長が必要と認められた者となっており、センター員には教育能力開発担当教職員、外国語教育担当教員、教養教育担当教員があたる。委員の過半数が出席しなければ議事を開くことはできないため、欠席の場合は代理者を求める。</p> <p>SD推進委員会は、学長を委員長として、副学長、事務局長、事務局次長、庶務部長、研修室長（法人本部）を委員としてSDについて継続的に審議する。</p>
---	---

<p>c 委員会の審議事項等</p> <p>第1学部運営委員会は、次の事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学務及び教務に関すること (2) 学生生活に関すること (3) FDなどの教育に関すること (4) 研究体制に関すること (5) 図書館の運営に関すること (6) 情報処理センターの運営に関すること (7) その他の附属教育研究施設に関すること (8) 外国語教育科目、教養教育科目、教職関連科目、博物館学芸員関連科目等学部共通教育に関すること (9) ICTを活用した教育システムに関すること (10) 学部長等会議から審議付託されたこと (11) その他大学の教育及び研究に関して必要なこと <p>教育能力開発センター運営委員会では、次に掲げるセンター業務について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本学部の教育課題に係る調査、研究等に関すること (2) 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること (3) 授業評価に関すること (4) 学生の学修支援に関すること (5) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること <p>SD推進委員会は次の事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) SDの実施方針ならびに実施計画の作成に関すること (2) SDの実施に関すること (3) SDにおける点検・評価に関すること (4) その他必要事項
<p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業アンケート ・ 教員相互の授業参観 ・ FD講演会、FD・SD講演会 ・ 今治キャンパスにおいては、四国において活発に活動が行われている四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education以下「SPOD」という) のFD・SD活動に職員を派遣するとともに、SPODからも講師を派遣してもらい、研修に役立てる。
<p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業アンケートに関しては③に後述する。 ・ 教員相互の授業参観は学部内で教員が参観できる授業参観を毎年実施している。詳細はC項に挙げている。 ・ FD講演会、FD・SD講演会 講演会は講師による講演と質疑応答を行い各自が授業改善の取り組みに生かす。フォーラムは講演とワークショップがセットになったもので、ワークショップでは具体的に教授手法などを学ぶことができる。
<p>c 開催状況 (教員の参加状況含む)</p> <p>平成30年度も全学のSD・FD講演会を実施する計画である。獣医学部においてもFD講演会、研修会を実施する計画である。獣医学部においてFDに向けた支援を行う教育能力開発センターに対する理解を深めることを目的に、平成30年度第1回FD研修会を4月2日(月)に実施した。</p> <p>平成29年度の全学のSD・FDの実施状況は下記の通りである。</p> <p>2017/5/11 第1回FD研修会(入学前教育結果報告会)</p> <p>2017/6/1 FD・SD合同研修会(入試広報セミナー:庶務課開催)</p> <p>2017/6/12 第4回FD研究会(MOMO-CAMPUS活用講座)</p> <p>2017/8/4 第36回FD講演会(共通教育のスタンダードの策定とカリキュラム改善について)</p> <p>2017/9/12 第37回FD講演会(大学における算数教育の意義)</p> <p>2017/9/2 第2回FD研修会(SPODフォーラム・GLILワークショップ報告会)</p> <p>2017/9/22 科研費応募説明会(研究・社会連携室主催)</p> <p>2017/10/5 第6回FD研究会(授業評価アンケートの結果と解析)</p> <p>2017/10/2 第3回FD研修会(学生FDサミット報告会)</p> <p>2017/11/2 第4回FD研修会(キャリアアプローチ結果報告)</p> <p>2017/11/2 第7回FD研究会(3つのポリシーおよびカリキュラムマップの検討)</p> <p>2018/11/13 授業アンケートに関するFD講演会(理学部化学科開催:第8回化学科教室会議)</p> <p>2017/11/14 専門英語の講演・情報交換会(工学部開催)</p> <p>2017/12/7 第8回FD研究会(シラバスの入力に関する内容)</p> <p>2018/12/8 FD・SD合同研修会 第1回ダイバーシティ研修会</p> <p>2018/3/9 第8回FD活動報告会及び教育改革推進補助事業報告会</p> <p>2018/3/12 第5回FD研修会(安全保障管理制度講演会:研究連携開催)</p> <p>2018/3/19 第6回FD研修会授業改善に役立つワークショップ</p>
<p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観に関しては参観者が記入したレポートを、学内の教職員が閲覧可能なポータルサイトに掲載し、各授業参観に参加できなかった教員の参考資料になるようにしている。
<p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>すべての授業科目に対してWeb(ポータルサイト)によるアンケート調査を実施している。質問項目は、学生自身の学習の取り組み、授業内容の水準、方法、形態、施設・設備などに加え、自由記述欄も設けている。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>アンケートの集計結果は、Web上で確認することができ、所属長の点検と同時に担当教員自身が学生による自由記述欄へのコメントに対する所見をWebシラバス上に登録する。所見については、全ての学生・教員が閲覧できるようにしている。またWebシラバスの所見欄が拡充され、「受講者へのコメント」、「次回に向けての改善・変更予定」を加え、学生の意見に教員が応えることによって継続的な授業改善が行われるようにしている。</p>

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

獣医学科においては、獣医学の知識と技能を活かし、次の3つの観点に基づく人材像を掲げている。

①ライフサイエンス研究に必要な基礎的な知識と技能を有し、実験動物の研究成果をヒトの治療に繋ぐトランスレーショナル・リサーチ分野で活躍できる人材を養成する。②国内外の感染症防御や食の安全性を担うため、国際的な視野を有し、家畜越境感染症や人獣共通感染症の対策、及び危機管理対応に貢献できる人材を養成する。③ヒトと動物の疾病構造が類似していることに着目し、獣医師として動物の臨床的な知見に加え、ヒト疾患の特性を理解し、科学的臨床評価に基づき、動物とヒトの相互に応用できる予防・診断・治療法の確立等、動物とヒトの創薬や医療機器等の開発に貢献できる医獣連携獣医師を養成する。

これらの人材養成の目的の達成に向け、＜アドバンスト科目＞を配置し、①については、ライフサイエンス分野において基礎研究の成果をヒトの治療につなげ、創薬研究等において国際競争力の向上に貢献できる人材を養成するため、＜ライフサイエンス科目＞を配置する。この科目群では、創薬科学の専門家等を配置し、「トランスレーショナル・リサーチ」、「創薬科学」等を体系的に学び、さらに実際にトランスレーショナル・リサーチの基礎的技能を修得する「ライフサイエンス特別実習」により、実験動物を用いた基礎研究の成果をヒトの治療に繋げる高度な実践力を有する人材育成を推進する。

②については、国際的な視野を有し、家畜越境感染症や人獣共通感染症の対策、及び危機管理対応に貢献できる人材を養成するため＜国際獣医事科目＞を置く。この科目群では、公衆衛生、獣疫学、人獣共通感染症、水畜産の専門家等の専任教員を配置し、「動物危機管理学」、「国際動物疾病学」、「レギュラトリー科学」等を網羅したカリキュラムを整備する。さらに、これらの講義、演習で得られた知識を活用する実践的な能力を養うため、国際獣医教育研究センターを活用した「公共獣医情報解析実習」を配置することにより、感染症統御に関する最新情報等を把握し、エビデンスの分析、評価を行う体験を通して、国内外の公共獣医事に対応できる獣医師を養成する。

③については、医学部や薬学部で教育経験を積んだ教員を配置し、「抗菌薬バイオロジー」、「トランスレーショナル・ペテリナリーメディシン」等の体系的なカリキュラムにより、医学と獣医学は共通であるという認識にたった医獣連携ができる獣医師の教育研究を推進する。

開設初年度である本年（平成30年度）では、4月のオリエンテーション及び初年次科目である「フレッシュマンセミナー」が開講し、獣医学科の目標やコンセプトが学生に浸透している。また、獣医学科と獣医保健看護学科の学生が共に学ぶ「学部共通導入科目」として、獣医師と獣医関連専門家（VPP）の仕事の現場を体験に基づいて学ぶ「動物関連キャリア概論」や、解剖学、生理学、薬理学、生化学の基礎的な実習課題に取り組み、生命科学の理解を深める「生命科学実習」が開講しており、獣医師あるいは獣医関連専門家（VPP）としてのキャリアを視野に学びへの動機づけが行われた。

開設後、設置計画を着実に履行し、学部の教育研究目的を達成するために、平成30年度4月に着任した教員については、本学の方針、ビジョン・アクションプラン（中期目標・中期計画）、獣医学部の人材養成の理念、教育研究上の特色、学生支援や管理運営方針等について研修を行い共有した。今後は、獣医学部の円滑な運営に向けて、獣医学部の3つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）に基づく教育の推進を目指し、獣医学部内に設置した評価・計画委員会を中心に、学部の内部質保証が有効に機能していることを確認する体制を整え、運営していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成32年4月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公表

③ 認証評価を受ける計画

平成32年度に評価機関（大学基準協会）の認証評価を受ける予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有 ・ 無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (31 年 3 月 1 日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。